

聖徒の道

5

1991



末日聖徒
イエス・キリスト
教会

聖徒の道

1991年5月号

読者からの便り

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊——イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊——インドネシア語、タイ語、タヒチ語。季刊——アイスランド語。

大管長会：エズラ・タフト・ベンソン、ゴードン・B・ヒンクレイ、トーマス・S・モンソン
十二使徒定員会：ハワード・W・ハンター、ボイド・K・バックナー、マービン・J・アシュトン、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ジェームズ・E・ファウスト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オーグス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット
顧問：レックス・D・ピネガー、ジョン・R・クック、ジョン・H・グローバーク、ロバート・E・ウエルズ
編集長：レックス・D・ピネガー
教科課程管理部実務部長：ロナルド・L・ナイトン
教会機関誌ディレクター：トーマス・L・ピーターソン

国際機関誌

編集主幹：フライアン・K・ケリー
編集主幹補佐：マービン・K・ガードナー
編集副主幹：デビッド・ミッチェル
編集補佐/こどものページ：ディエーン・ウオーカー
工程管理：ダイアナ・パンシュターフェレン
チーフアートディレクター：M・マサト・カワサキ
アートディレクター：スコット・D・パン・カンペン
デザイナー：シェリー・クック
制作：レジナルド・J・クリステンセン、スティーブ・デイトン、ジェーン・アン・ケンプ、デニス・カービー
配送部長：ジョイス・ハンセン
聖徒の道 1991年5月号第35巻第5号
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106 東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351
印刷所 株式会社 精興社/クロスロード
定価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)
半年予約 1,100円(送料共)
普通号 150円、大会号 350円

International Magazine

ITEM 91983 300

Printed in Tokyo, Japan.

Copyright © 1991 by the Corporation of the President of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved.

●定期購読は、「聖徒の道予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留が郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/東京0-41512)にて管理本部経理課へご送金いただければ、直接郵送いたします。●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課 ☎03-3440-2351(代表) ●「聖徒の道」の配送についての問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

The Seito No Michi (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150. Second-class postage paid at Salt Lake City, UT 84150. Subscription price \$14.00 a year. \$1.50 per single copy. Thirty days' notice required for change of address. When ordering a change, include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both the old address and the new are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Church Magazines, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A. Subscription information telephone number 801-240-2947.

POSTMASTER: Send address changes to Seito No Michi at 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A.

愛と靈感に満ちた大会特集号

教会員になったばかりの私には、まだたくさん学ぶことがあります。そんな中で、「ション・トゥ・チャー・ション」(中国語版。「聖徒の声」の意)ほど心を動かされる読み物はありません。第160回半期総大会報告の教会幹部の話に、深く感動し、涙を抑えることができませんでした。どの話も愛と靈感に満ちています。私のワード部には、この大会特集号に感動した人たちがほかにも大勢いました。

妻と私は天父の祝福のおかげで、真実の教会の会員になれたことに感謝しています。これからも勤勉に福音の原則に添った生活を続け、子供たちに福音を教えていきたいと思っています。そしていつの日か、子供たちがふたりとも宣教師になって伝道に出ることを夢見ています。
台湾^{シンチュー}新竹地方部、新竹支部
トンチー・チェン

提案

「リアホナ」(スペイン語版)は、私の家族全員にとって靈感と力の源です。ほかの大勢の読者にとっても同様であると私は確信しています。8歳の息子は自分で「リアホナ」を1年間予約していて、妻と私も銘々自分の「リアホナ」を予約しています。
第二副ステーキ部長を務める私は会員に主のみ旨を行なうよう勧めるとき、この機関誌に掲載されている証や話の助けを借ります。

しかし、私が担当している責任の関係もあって、最近、神殿や家族歴史についての記事がきわめて少ないか、ときにはまったく載っていないことに気づきました。「リアホナ」にこれらの記事をもっと載せてもらえないでしょうか。このふたつの大切なテーマに関する教会幹部の話や、犠牲、忠誠、信仰、

献身にあふれた記事は、「リアホナ」の良いテーマになると思います。

メキシコ、ブエブラ、
イスラエル・ルーバルカバ・ロペス

「リアホナ」の力

昨年、教会員の友人が「リアホナ」(スペイン語版)を何冊か貸してくれました。最初に私が読んだのは1990年1月号で、前年の10月に行なわれた総大会の特集号でした。中には天父に関するすばらしい記事が数多く載せてありました。こうして「リアホナ」を読んでいると、神の予言者の言葉を聞くのは大変大事な、価値あることだとわかりました。

それ以来、続けて「リアホナ」を読んでいます。自分の経験から考えて、聖典は人生を正しく生きる道を教え、「リアホナ」は正しい道を歩む力を与えてくれるものだと言えると思います。

私は「リアホナ」を読むのが好きです。現在、教会員ではありませんが、自分で年間予約をしたいと思っています。メキシコ、ベラクルス、
ビクトール・マヌエル・ビエガス・ペレス

編集室から

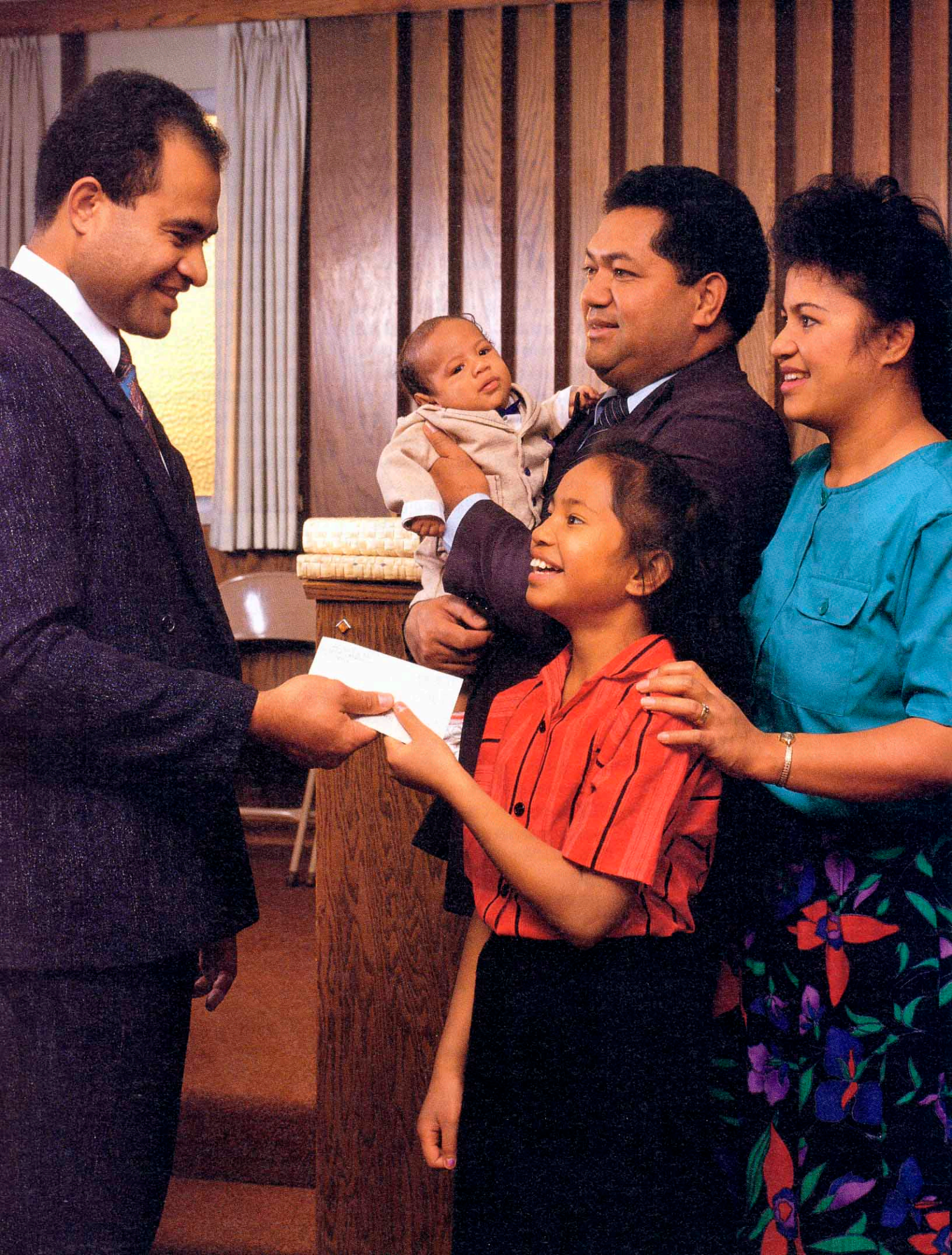
愛読者の皆様にご心よりお礼申しあげます。皆様からの手紙、記事、証などを募集しています。お便りは日本語でも結構です。(投稿の際には、住所、氏名、ステーキ部/伝道部/地方部名、ワード部/支部名を明記してください)これまでいただいたお便りに感謝するとともに、これからもさらに多くのお便りをお待ちしています。あて先は下記のとおりです。

Comment, Seitonomici

50 East North Temple Street

Salt Lake City, Utah 84150

U. S. A.



神聖な什分の一の 律法

第一副管長

ゴードン・B・ヒンクレー

子供のころ、私は、ヒーバー・J・グラント大管長が確信に満ちた話し方で、神聖な什分の一の律法について証するのを何度か聞いたことがあります。グラント大管長は、什分の一の捧げ物を正直に納める人に主から与えられたすばらしい約束についても、証しました。それらの話には私は深く心を打たれました。

古代の予言者マラキの次の深遠な言葉はよく引用されます。

「人は神の物を盗むことをするだろうか。しかしあなたがたは、わたしの物を盗んでいる。あなたがたはまた『どうしてわれわれは、あなたの物を盗んでいるのか』と言う。十分の一と、ささげ物をもってである。あなたがたは、のろいをもって、のろわれる。あなたがたすべての国民は、わたしの物を盗んでいるからである。わたしの宮に食物のあるように、十分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい。これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、あふるる恵みを、あなたがたに注ぐか否かを見なさいと、万軍の主は言われる。わたしは食い滅ぼす者を、あなたがたのためにおさえて、あなたがたの地の産物を、滅ぼさないようにしよう。また、あなたがたのぶどうの木が、その熟する前に、その実を畑に落すことのないようにしようと、万軍の主は言われる。こうして万国の人は、あなたがたを祝福された者となえるであろう。あなたがたは楽しい地となるからであると、万軍の主は言われる。」(マラキ3：8—

私は什分の一を納めることを教えてくれた両親にいつも感謝しています。正直に什分の一を納めている人々で、天の窓が開かれ、数々の祝福が注がれたことを証できない人を、私は知りません。

青少年の皆さんには、若いうちからこの習慣を身に付けるように、一生それを守り続ける決心をするようにお願いいたします。

12)

その約束を与えられたのが天の神、主であること、神はご自身のなされた約束を守る力を持っておられることを私は知っていました。実際に神がそうされることも、わかるようになりました。

両親に対する感謝の念はいつまでも変わることがありません。両親は、私が物心つくころから、什分の一を納めることを教えてくれました。当時私たちが所属していたワード部の集会所には、監督室というものがなく、什分の一の年末面接は監督の家でしていました。まだ幼なかつたころ、ジョン・C・ダンカン監督の家に年末の面接を受けに歩いて行きましたが、その時のどきどきした気持ちは今でもよく覚えています。そのころはあまりゆとりのない時代で、小遣いもそんなに多くなく、什分の一の額はただか25セントくらいだったと思います。しかしその額は、日曜学校でいつも繰り返させられた言葉のとおり、子供ながらに正直に計算したものでした。

「什分の一って何のこと？」

それならば私が教えてあげる。

1ドルだったら10セント、

10セントだったら1セント。」

私たちは什分の一を納めることを、犠牲と考えたことは一度もありませんでした。むしろ、それは義務であり、幼いながらも自分は主が定められた義務を忠実に果たし、教会に与えられた偉大なみ業の進展に寄与しているのだという気持ちを持っていました。

什分の一を納めることによって、祝福を得てきたことは証できますが、その見返りとして物質的な祝福を求めたことはありませんでした。主は天の窓を開き、驚くほどたくさんの恵みを注いでくださいました。主はこの戒めに忠実に歩むすべての人に祝福を与えてくださることを私は知っています。

誤解しないでいただきたいのですが、私はここで、正直に什分の一を納めたら立派な家や車を買えるとか、ハワイに別荘が持てるとか申しあげているわけではありません。主は私たちの物欲を満たすのではなく、私たちの必要に応じて天の窓を開けてくださるのです。金持ちになるために什分の一を納めているというのであれば、動機からして間違っています。什分の一の基本的な目的は、

主のみ業を推し進めるために必要な資金を教会に捧げるという点にあります。この戒めに従う人に与えられる祝福はあくまでも付随的なものであり、目に見える物質的な形で与えられるとは限りません。天の窓が開かれることについて主はこう語っておられます。

「わたしは食い滅ぼす者を、あなたがたのためにおさえて、あなたがたの地の産物を、滅ぼさないようにしよう。また、あなたがたのぶどうの木が、その熟する前に、その実を畑に落とすことのないようにしよう……。こうして万国の人は、あなたがたを祝福された者となえるであろう。あなたがたは楽しい地となるからであると、万軍の主は言われる。」(マラキ3:11-12)

主はこの世の富に勝る祝福を様々な形で与えてくださいます。健康という素晴らしい祝福もそのひとつです。主は私たちのために食い滅ぼす者をおさえると約束してくださいました。マラキは地の産物について語っています。この約束は、私たちが努力している事柄や心を寄せている事柄の上に、様々な形をとって実現されているのではないのでしょうか。

また、知恵と知識の祝福、まさしく隠された知識の宝という素晴らしい祝福もあります。もし、この律法に従順に歩むなら、私たちの地は「楽しい地」になると約束されています。「地」という言葉は「民」と置き換えることもできます。従順な人はその心に喜びを得ることができるのです。ほかの人々から、祝福された民となえられるようになるというのは、なんと素晴らしいことではないのでしょうか。

経済的に苦しい状態にあつて什分の一を納める余裕がないという話を、最近よく耳にします。何年も前、ステーキ部長をしていた時のことですが、ある兄弟が私のところに、神殿推薦状に署名してもらいたいと言ってやって来ました。私はいつもするように、その資格についていくつか質問をしました。特に、什分の一を正直に納めているかどうか質問しました。彼はそれに答え、借金がたくさんあつて、什分の一を納める余裕がないと、ありのままを言いました。私はその時、什分の一を納めるようになるまでは、借金を返すことはできないと言うべきだと強く感じました。

それから1、2年の間、彼の什分の一に対する態度は



前と何ら変わるところがありませんでしたが、あるとき、彼はついに決心しました。彼は後に、そのことについて語ってくれました。「あなたが言われたことは本当でした。私は借金が多くてとても什分の一など、と考えていました。でも、どんなに頑張っても返済は無理だということに気がついたのです。それで妻と話し合い、主が約束してくださったことを試してみることにしたのです。私たちは実行しました。そうすると、主は私たちには考えもつかないような方法で祝福をくださいました。主に納めたお金を惜しむ気持ちはありませんでした。何年かぶりで借金が減ってきたのです。予算を立てて出費を抑えたり、お金の使い道がどうなっているかを確認したりする知恵を身に付けました。大きな目標達成のために、欲望を抑えることもできるようになりました。一番うれしいのは、そのすばらしい祝福に値する人々と一緒に、主の宮居に行けるようになったことです。」

什分の一を納めることは可能なのです。これは金銭の問題ではなく、むしろ信仰の問題なのです。正直に什分の一を納めている人々で、文字どおりすばらしい方法によって天の窓が開かれ数々の祝福が注がれたことを証できない人を、私は知りません。

愛する兄弟姉妹の皆さん、この大切な事柄に関して主のみ言葉をそのとおりに受け止めてくださるよう、皆さん一人一人に強く勧めたいと思います。戒めを下し、約束を与えてくださったお方は主なのです。ニーファイの言葉を引用してみたいと思います。彼は不安と悩みの中にあって自分の兄弟たちにこう語りました。「私は兄たちに話して言った『私たちは、またエルサレムまで引き返そうではないか。そして主の命令を忠実に守ろうではないか。ごらん、それは全世界が向っても主の強さにはかなわないからである。……』」（I ニーファイ 4：1）

私はすべての末日聖徒に心から申し上げます。主に対して正直に、什分の一や捧げ物を納めるようにしてください。青少年の皆さんには、若いうちからこの習慣を身に付けるように、一生それを守り続ける決心をするようにお願いします。教会の指導者の皆さんには、教会員が恵みと祝福を受けるためにさらに忠実な態度で什分の一や捧げ物を納めるように勧めていただきたいと思います。

教会がこれほど大きな発展を遂げられたことは、私に

とってひとつの奇跡です。信仰によって実現した奇跡であり、主ご自身が自らの王国の財政基盤を確立するために定められた計画によって可能になったものです。

什分の一は非常に単純でわかりやすい戒めです。私たちが実践すべきこの原則は、教義と聖約119章の次の1節に表現されています。「まずこれを為して後、(つまり聖徒たちが1838年に彼らの『剰余の財産』を監督に納めた後で)かくの如く什分の一を納めたる者は、以後毎年彼らの得る全利益の什分の一を納むべし。これを以て、わが聖なる神権のためにする彼らの守るべき永久的定法となす、と主は言う。」(4節)

たったこれだけの短い定義を、国が定めて施行しているあの複雑でややこしい税法と比べてみてください。前者は簡潔な主の声明で、個人が信仰によって納めるものです。後者は人が作り出し、法律によって強制的に行なわれているきわめて複雑な網の目のようなものです。

主は教会に大きな責任を与えられました。什分の一は、主が定められた数々のプログラムを推進するための財源となるものです。いまだかつてこうした必要がことごとく満たされたことはありませんし、これからもそうでしょう。

願わくは私たちがこの偉大な原則に従えるよう神が助けを与えてくださるよう。このすばらしい約束を伴う律法は、神ご自身が定められた律法なのです。□

ホームテイナーチャーへの提案

1. 主は正直に什分の一を納める人々にすばらしい約束を与えてくださっている。
2. 健康、知恵、知識、喜ばしい民となる力、食い減ぼす者を私たちのためにおさえていただく特権、これらは什分の一を守るときに主が注いでくださる様々な祝福のほんの一部にすぎない。
3. 什分の一を納めることは、金銭の問題ではなく信仰の問題である。
4. 主は教会にきわめて大きな責任を課せられた。什分の一はそうした責任を遂行するための財政的基盤である。

自分の目で

パメラ・J・テイラー

私は身の回りにある物の、ほんの1割しか見ることができません。それもたいていは、大きくてゆっくり動くような物だけです。ところがある日の午後のこと、ほんの少しの間いつもとは違うことが起こりました。

私は丘の上の木陰に腰を下ろしていました。辺りには人の気配もなく、緑のじゅうたんのような芝生の上で、そばに咲いていたバラの花の香りを楽しんでいました。神様が創造された美しい世界のほんの一部でも見られるということに感謝の念を抱きながら、ひざまずいて花の一輪一輪に触れようとしたのです。

すると突然、近くで何かが動くのを感じました。それからすぐそばで、チュンチュンという鳴き声が聞こえました。鳥に違いない、見ることができたらどんなにいいだろうと思いました。鳥はそれまで写真でしか見たことがありませんでした。とても小さくてすばやく飛んで行ってしまうので、本物を実際に目にすることなどとてもできないと思っていたのです。

何か茶色いものがチラッと見えた時は、心臓がドキドキしました。じっと目を凝らすと、それはやはり鳥でした。目の前で堂々と羽を広げる鳥の姿を、私は畏敬の念をもって見詰めました。驚いて逃げて行ってしまわないように、じっと息を殺しながら。

でもそれはほんの一瞬だけでした。鳥が青空に消えて行ってしまうと、私は思いきり泣きました。それほど見事に美しいものを、もっと見ていたかったのです。

でも間もなく、別の思いが浮かびました。もし私の視力が完全であるならば、見える物に対して今ほどに大切に思う気持ちを感じることはないかもし

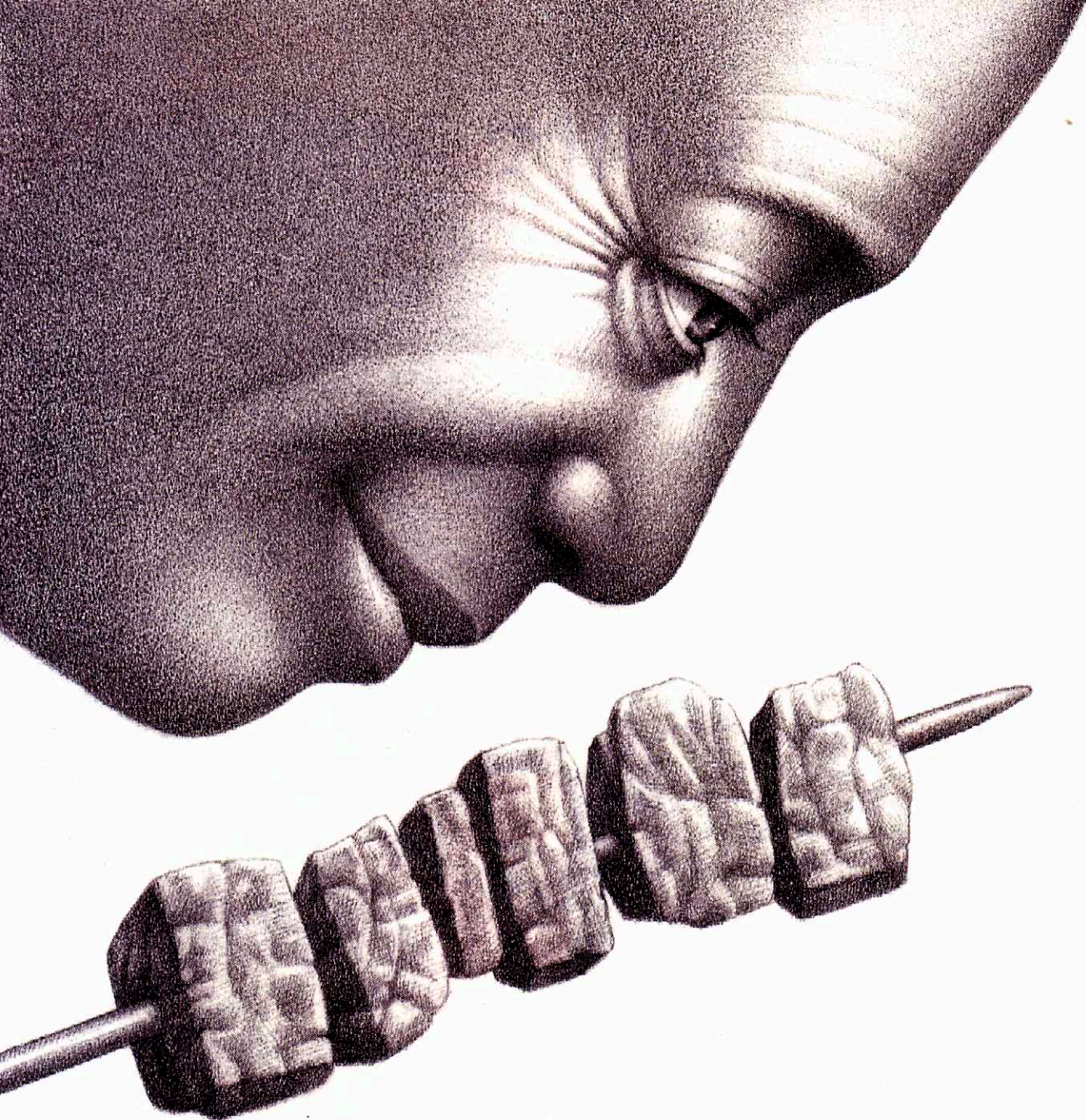
れない。また物の内に秘められた美しさをそれほど容易には認めないかもしれないし、自分の苦しみを通して思いやりの気持ちを身に付けることもなかったかもしれないのではなからうか。神様が私に対するみこころを、やさしく思い起こさせてくださったのです。今のままの方が最もよく主に仕えることができるかもしれません。

私は涙をふいて祈りました。「主よ、

鳥を見せてくださったことに感謝します。」□

*パメラ・J・テイラー姉妹：ユタ州ベニオン東ステーク部バレーパークワード部所属。





ぼくはここフィリピンで末日聖徒であることをうれしく思います。友達にもそのことを伝えたいと思います。ぼくは教会を通して友達の知らないことをたくさん学びました。そのひとつは正直です。ぼくが正直であるというだけで、友達はぼくとぼくの教会を尊敬してくれます。最近経験したことからそれがわかりました。

ぼくはよく朝ごはんを食べずに学校へ行っていました。そんなある日、授業中におなかがグーグー鳴り続けたことがありました。そこで休み時間に近くのバーベキュースタンドへ走って行き、バーベキューの肉をふたくし取って食べ、それから教室へもどりました。

ところが、教室で先生からノートに何か書き写すように言われたとき、ポケットの中のエんぴつを取り出そうとして、お金があることに気づきました。バーベキューのお金をはらわずにきたのです。そこでぼくはすぐに教

室を出て、店に走って行き、お金をはらいました。店の人はとても喜んで、ただでもうひとつしバーベキューをくれました。

ぼくがにこにこして教室にもどると、先生はとても怒っていました。ぼくがだまって教室を出たからです。先生はぼくが何をしていたのかを知りたがりました。

ぼくは先生にありのままを話しました。するとおどろいたことに、先生はぼくのかたにうでを回し、教室のみんなに向かってこう言いました。「みなさん、ジュリアスのように正直になってください。」

それから先生は、だまっていればわからないのに、なぜお金をはらいに行ったのか、ぼくにたずねました。そこでぼくはこう答えました。「ぼくは執事しつじだからです。ぼくがふさわしくなければ、監督はぼくに聖餐せいさんのパスをさせてくれません。」先生はぼくの言っていることがまっ

「ジュリアスのように 正直になってください」

ジュリアス・B・カサエル

たくわからず、なぜお金をそのままにしておかなかったのかもう一度たずねました。

そこでぼくは「ぼくたちは正直であることが正しいことだと信じているからです」と答えました。

「なぜ？ あなたの宗教は何なの？」先生は聞きました。

ぼくはためらわずに言いました。「ぼくはモルモンです。」

「まあ、それであなたは正直なのね。」

先生のおかげで、ぼくはその日自分がすごくえらい人になったように感じました。信仰箇条第13条に従ったことをうれしく思います。それは次のような言葉で始まります。「われらは、正直、真実……なるべきこと……を信ず。」

正直は最善の策なり、というのは本当ですね。□

ILLUSTRATED BY STEVE KROPP





PHOTOGRAPHY BY JED VANDEBERGHE

ドミニカ共和国の聖徒たち



ドミニカ共和国での教会の目を見張るような発展は、祝福とチャレンジの両方をもたらしました。このカリブ海の島の教会員や指導者たちは、将来を楽観的に見えています。

エリザベス・バンデンバーク、ジェド・バンデンバーク

もし、あなたが10年前にドミニカ共和国の通りでだれかに末日聖徒イエス・キリスト教会について尋ねても、何のことかまったくわからないという返事が返ってきたことでしょうか。イスパニオラ島をハイチ共和国と共有し、島の東3分の2を占めるその小さな国は、フロリダの南東わずか900キロの所にあります。しかし、1978年までドミニカの人たちと教会との唯一の接点は、地元の人が「広告放送」と呼んだものだけでした。それはテレビで放送される家族のメッセージで、だれも知らない教会がそのスポンサーになっていました。

今では3つのステーク部とふたつの伝道部、6つの地方部に70以上のワード部や支部があり、ほとんどの人が末日聖徒について知っています。教会の会員数は、1978年には6人だったのが、1990年には25,000人に増えています。ドミニカの首都サントドミンゴからカリブ海沿岸の田舎町に至るまで、末日聖徒はどの階級やどの職業にも見受けられます。

この教会のすばらしい発展は、1978年にアメリカ人ドミニカ人の末日聖徒の2家族がアメリカ合衆国からサントドミンゴに移り住んだ時から始まりました。その家族は、だれも聞いたことのない教会について話し始め、間もなくいくつかの家族がバプテスマを受けました。

最近改宗したアントリン・エステバン・ロドリゲスと妻ロサと子供たち、ロセリン（2歳）、サロモン（5歳）、ロリン（8歳）。サンチアゴの自宅前で。ロドリゲス兄弟は現在サンチアゴステーク部センターの建築監督として働いている。

11月には宣教師が到着し、12月に M・ラッセル・バラード長老が伝道の業のためにその国を奉獻しました。すべては1978年のことでしたが、その同じ年にスペンサー・W・キンボール大管長が教会のすべてのふさわしい男性が神権を持つことができるという啓示を発表しました。スペイン人やアフリカ人、そのほかの人種的背景を持つこの国では、会員が急速に増加しており、それに伴って大勢の神権者が早急に必要とされていたので、この啓示を聞いたドミニカ人は「我々の時代が来た」と言って大喜びしたのです。

世界中の会員たちと同じように、ドミニカの人たちは家族や青少年を対象とする教会のプログラムを楽しんでいます。しかしほかの教会員同様、すべてを捧げるかのように教会の様々な責任を果たし、理想を達成するために奮闘しています。ドミニカの会員たちは、教会員としての一致を図り、階級の溝の橋渡しをしたいと望んでいます。また、急速に発展する教会の未来の指導者として青少年を備え、家族を経済的に支え、今日の世界の至る所で女性が直面しているチャレンジにこたえるよう女性を助けたいと望んでいます。

ドミニカの会員にどんなふうに行っているのかと尋ねると、皆が良いアイデアを持ち寄って工夫していることがわかるでしょう。様々なチャレンジの中には、解決することがとりわけむずかしいものもあります。たとえば、電気不足のため毎日よく停電になり、夜の集会や活動が突然中断することがありますが、これはまったく手に負えません。しかし、一致して働くことにより、各会員は、約束された未来に望みを抱いています。

すべての人が一致して

サントドミンゴに住むラモン・アブルーは最初に教会を訪れたとき、次のように思いました。「ほかの宗教の中で見てきたのとは違って、この教会では人を貧富によって分け隔てしない。すべての人が一致して、それはまさに私が主の教会はこうあるべきだといつも心に描いてきた姿だ。」

ドミニカ共和国では聖餐会やワード部のパーティーをはじめ、小さい指導者会でさえも、一致と温かさにあふれています。それは聖徒たちが「相愛し相一致してその



上——ラファエル・ティローネは靴屋を営んでいる。彼と妻ミレディは最近サンチアゴで教会に改宗した。
下——娘のひとりブランカ・マリアと一緒に写っているドミンゴ・クルス兄弟はサンチアゴ・ピラオルガ支部の支部長である。医療技師の彼の趣味は裏庭で鳥を飼うことである。

心を結」ぶ(モーサヤ18：21)ために働いていることを証明しています。集会の終わりには教会員同士が抱擁し、地方部のダンスでは皆が手を取り合って共に過ごすことを心から楽しみ、ホームティーチングや家庭訪問の約束が友人たちの間で熱心に取り交わされているのを見るとそれがよくわかります。

しかし、会員同士の一致は、単に温かく親切に人をもてなすドミニカ人の国民性によるものだけではありません。指導者も会員も一致協力しようと一生懸命努力しています。教会にはあらゆる階層の人が集まっているため、ときとして一致するのがむずかしいことがあります。社会的に身分が違ったり、地理的に離れていたり、生まれ育った宗教が異なる人々が教会員として一致を図るには、みたまによる指導が必要とされます。サンチアゴ地方部長を務めるラモン・ランチグアと妻ビクトリアのようなドミニカの教会指導者は、まさにそのような靈感を受けた指導者です。

「階級の問題については私は幾度もお祈りしています」

とラモンは言っています。ときどき教会の集会で、身分の高い女性同士が会うと抱擁するのに、ほかの姉妹たちには義務的なあいさつしかしないことがあります。「もし、主がここにおられたらそのようにするでしょうか。高い身分の人にだけほほえまれるでしょうか」とラモンは質問しています。ビクトリアはプレゼント交換のような活動に頭を悩ませています。裕福な人にとっては問題ないのですが、貧しい人はたったひとつの小さなプレゼントを買うお金さえ工面しなければならないのです。

支部の扶助協会会長として、ビクトリアは階級差を表に出すものを避け、各自の才能に価値を置く活動を計画しています。ランチグア地方部長は一人一人を平等に神の子として扱う点において良い模範を示すよう指導者たちを励ましています。このようにしていくなれば、会員は指導者の模範に従うものです。

結果はどうだったでしょうか。新しい会員、年配の会員、教会員ではない人も、心の底から歓迎されていると感じる一致の精神が生まれました。シーザ・ロザノ兄弟とリリアン夫人はアメリカ合衆国、スペイン、プエルトリコに住んだ後、1989年にバプテスマを受けました。ドミニカの会員たちから非常に温かい歓迎を受け、このように思いました。「私たちはこれが神の教会に違いないとわかりました。皆とても仲が良いのです。」

青少年の指導

ドミニカ共和国の若い男性と若い女性の活動日には、青少年の指導者だけでなく、いつも監督、ステーキ部長、副ステーキ部長、扶助協会の指導者も出席します。サンチアゴの青少年が地方部の活動日にメレンゲ(ドミニカ、ハイチ起源の社交ダンス)を踊っている間、地方部長会の人たちは音を調節したり、時折ダンスを踊ったりさえます。金曜日のセミナーのクラスの後では、支部長がハムやチーズをはさんだドミニカ風のサンドイッチを生徒たちの朝食に準備します。

サントドミンゴのステーキ部若い女性会長のペーニャ・デ・ディアスは次のように言っています。「私たちの青少年もほかの地域の青少年と同じ誘惑に直面しています。ラジオ、テレビ、映画などすべてが純潔の律法を破るよういざなっているのです。」

指導者たちはまた、ドミニカの若者たちの間で広まっている、法律の手続きを踏まない慣習法による結婚(挙式せずに単に合意のみに基づいた同棲)の習慣や飲酒と戦っています。「若い人たちは結婚をそれほど重要なものとは考えていないので、神殿結婚について教えるのはとてもむずかしい問題です」と第一副会長のマルサ・ポランコは言っています。

問題解決の鍵は、青少年と共に時間を過ごし、霊的に成長するのを助けることにありと指導者たちの意見は一致しています。「私たちは若い女性たちが霊的な経験を持てるよう努力しています」とマリア・ダイアは言っています。マリアはステーキ部のすべての若い女性たちが、がんを患ったひとりの少女のために断食したことを回想しています。その少女が快復したとき、「私たちは若い女性の創立記念日に彼女をたたえました。それは、少女たちにとって天父を近くに感じられる感動的な経験でした」とマリアは語っています。

若い男性会長、アウグスティン・フレテは同様の方法を取っています。青少年がこの世のものを避ける唯一の方法は、みたまを伴侶とすることであると考える彼は、神権を尊ぶことを強調し、若い男性のための奉仕活動を計画しています。サンチアゴ地方部の若い女性会長のアナ・メルセデス・トーレスは若い女性が直面している誘惑について彼女たちと率直に話し合い、担当している青少年たちのためにいつも祈っています。

ドミニカの青少年たちはこのような熱心な指導によくこたえています。ドミニカのふたつの伝道部で働く全宣教師の30パーセントから40パーセントは自国の若人です。また、18歳か19歳でステーキ部やワード部の指導者の責任に就いています。そして福音の見地から目標を設定し直しています。19歳のリカルド・ベアトはそのような若者の典型的なひとりです。彼はサンチアゴ伝道部ラベガ支部の第一副支部長で、求道者クラスを教え、ワード部演劇委員会の委員長も務めています。彼は教会に改宗してから、自分の目標を変えました。

彼はこう言っています。「改宗する前、ぼくの目標はほかの多くの若者たちと同じで、ニューヨークに行って金持ちになりたいといった物質的なことでした。」今彼の望みは伝道に出て、大学に行き、幸せな家族を作ること

です。

ホルヘ・ドミンゲスは23歳の若さでサンチアゴ地方部で伝道関係の重要な責任を果たしています。彼は14歳で教会に入りセミナーを卒業し、伝道に出ました。今はマドレイマエストラ大学に通っています。そこで彼は人類学の教授から「なぜ、君はモルモンなのかね」と質問をされて、300人の学生の前で答えたことがあります。それがきっかけでひとりの学生がバプテスマを受けました。

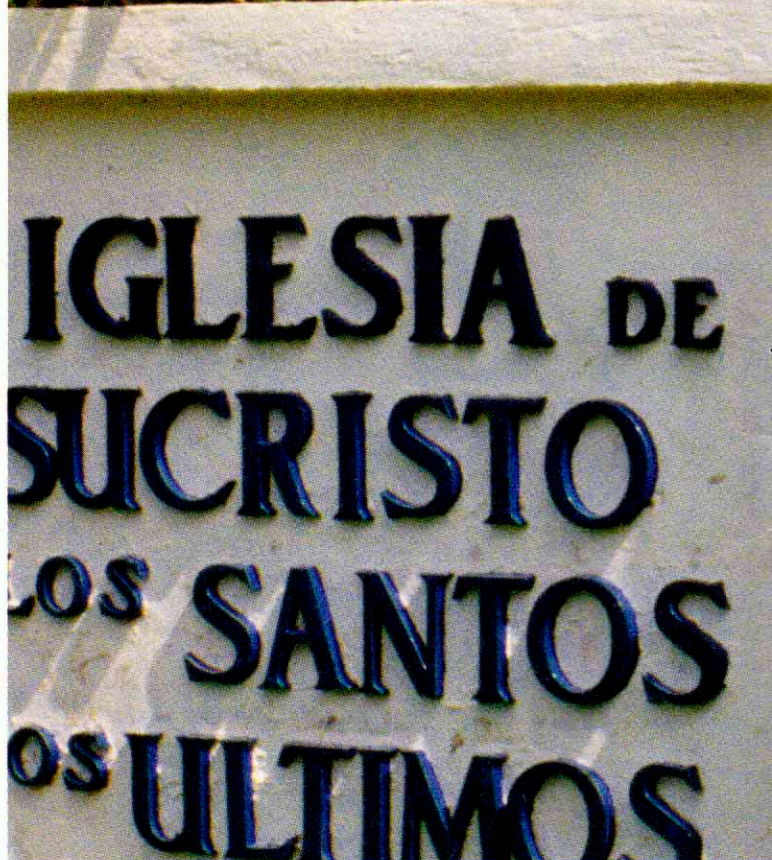
マルサ・ポランコはこう言っています。「教会の青少年は熱心で、意欲的な特別な存在です。多くは家族全員が教会員というわけではありませんが、集会に集い、教会の責任を果たすためにできる限りのことをしています。」ドミニカの指導者たちは、「青少年と共に過ごさない。そうすれば彼らはあなたに愛されていることがわかるでしょう」というオーグスティン・フリートのやり方を実行しています。

困難の克服

どこの教会の指導者もそうですが、ドミニカ共和国の指導者も貧しい人たちの必要を満たすために熱心に働いています。困っている兄弟姉妹がどんな必要を抱えているかをよく見極めることにより、会員たちは、ホームテチャーとして、あるいはただ福音を分かち合う友達として協力し合っています。たとえば、ある会員は子供が病気になる時、治療費は払うことができましたが、薬代を払う余裕がありませんでした。そこで何人かのワード部の会員がお金を出し合って、その子供が必要としている薬を買うことができました。

ある晩、アナ・メルセデス・トーレスがグアテマラ神殿参入のための旅行から戻ると、彼女の家が火事で焼けていました。「会員たちが服やそのほか必要なものを全部持ってきて助けてくれました。その夜は一緒にいてくださり、今でも助けてくださっています」と彼女は言っ

サンチアゴ地方部リベルタド支部のフォウスティノ・ビチャルド兄弟と妻のエマ姉妹は、家のドアをノックした教会の宣教師を最初は百科辞典のセールスマンだと思った。





ています。

経済的に困難な状況にある会員たちにとって、什分の一は信仰の試しとなります。にもかかわらず、その試しを克服した会員たちは、ほかの会員たちにその経験を分かち合い、励ましと希望を与えています。あるサントドミンゴの指導者はこのように述べています。「教会に改宗したとき、私は什分の一以外の戒めは全部守っていました。しかしある日私は、自分でも守りたいと思っているし、主が助けてくださると知っているからこそ、戒めを守るんだということを悟ったのです。」そのことに気がついてから、彼は完全に什分の一を納めています。「私は予想もしていなかったあふれるばかりの祝福を受けました。今私は什分の一についてためらうことなく証ができます。」

経済的に苦しい家族にとって、神殿参入もまた困難な問題です。ドミニカの何家族かはアメリカ合衆国の神殿に行っていますが、一番簡単なのはグアテマラ神殿に行くことです。しかし、グアテマラまで旅行するにも、何カ月あるいは何年も貯金をしなければならないのです。「この国はインフレがひどいので、貯金をするのが非常にむずかしいのです」とサントドミンゴ伝道部ファウスト・ベントゥラ第一副伝道部長は言っています。「私には幸いアメリカの神殿に家族を連れて行くゆとりがありますが、平均的なドミニカの家族には不可能です。」

教会の家族で神殿へ行くことができるのは、全体の5パーセントしかありませんが、まだ行ったことのない家族も結び固めの準備をしています。両親はいつも永遠の見地から物事を考えるように努め、神殿準備セミナーに参加し、いつか神殿に行ける日を待ち望んでいます。

姉妹たちの必要

「幸せなことに、教会はこの国の女性たちにとって様々な面で貢献しています」とサンチアゴのアイダ・ムニョス姉妹は言っています。教会には、家族を扶養している女性、外に働きに出なくても家庭にいることのできる女性、既婚の女性、独身の女性、道徳上の助けを扶助協会の姉妹たちに求めている女性など、様々な立場の女性がいます。

独身女性や母親を含め、貧しい人たちにとって、扶助



サントドミンゴのこの若い女性たちのようなドミニカの青少年は、ステーキ部、ワード部の伝道活動に積極的に参加している。下——温かさや福音に基づいた友情はドミニカの若い聖徒たちの特徴である。

協会の教育面での助けは非常に価値あるものです。ホームメイキングで姉妹たちはわずかな予算で健康に良い食事を料理すること、賢くお金を管理すること、責任感のある子供を育てることなどについてほかでは得られない助けや忠告を得ることができます。「ホームメイキングの集会で習った手芸で私は収入を得ることさえできるようになりました」とミレディ・ディローネ姉妹は言っています。

しかし、さらに大切なことは、扶助協会が友情と霊的な支えを姉妹たちに与えているということです。昼間はメイドとして働き、夜は自分の子供たちを世話しているレオナルダ・ペレス・デ・ベルビス姉妹はときどき落胆することがあります。「霊性を下げないようにするのはむずかしいことです。でも、ワード部の姉妹たちの深い愛を感じることができます。だれかが困っているとき、私たちはその人のために祈ります。そのような愛と支えは、教会以外のどこで見いだすことができるでしょうか」と彼女は言っています。

ドミニカ共和国の多くの独身の姉妹たちはワード部や支部で責任を果たしています。アナ・メルセデス・トレス姉妹にとってサンチアゴ地方部の若い女性会長の召しは、彼女の言葉によれば、「人生を全うするもの」であり、「地方部の青少年は私の家族同様になりました。彼らを見ていると、私自身の子供たちが教会に集う日がいつか来るという希望がわいてきます」と言っています。

リタ・ビビアナ・デ・クルス姉妹はドミニカの女性のもうひとつの特質をよく表わしています。彼女の夫、ドミンゴは医療技師で、ピラオルガ支部の支部長であり、6人の家族を養っています。リタは弁護士の秘書として1日中働いています。しかし、リタはドミンゴと相談した結果、近く仕事を辞めて家庭に入ることに決めました。「それは教会に入る前は考えてもみないことでした。また、容易な決定ではありませんでした。でも私たちは教会で教えられていることが正しいと信じています。」一方リタは扶助協会[＊]で学んだ家事の技術のおかげで、ずいぶん時間を節約できることがわかりました。「前にはどんなふう[＊]にやっていたのか自分でもわかりません。」

未来に備える

エクター・アントニオとベニタ・リベラートが1983年に教会に改宗したとき、彼らの友達[＊]は聞いたこともない宗教に入るなんて正気とは思えないと言いました。「今、そのときの友達の多くは教会員で、ひとり[＊]は私と一緒に高等評議員を務めています」とエクターは言っています。ベニタは自分が目の当たりにしてきたドミニカ共和国の教会の発展を振り返り、ステーキ部の初等協会会長としての召しを通してこのように感じています。「私は生涯のほとんどを教会で過ごす教会員の二世たちを導いているんだわ。なんて素晴らしい責任なんでしょう。」

ルビアン・セクイ姉妹と夫のフェリックスは地域社会と教会の両方で奉仕することによって教会のイメージを高めています。ルビアンはサントドミンゴに住む障害児のために孤児院を運営しています。また、教育を受けられない子供たちのためにクラスを設けて読み書きを教えています。『末日の女性——ルビアン・セクイ』「聖徒の道」1988年2月号、pp.35—37参照)サントドミンゴの教

会教育部長、フェリックスは、セミナーとインスティテュートの全国の登録人数が60人から2,000人に伸びたのを見てきました。彼はこのために一生懸命働いてきました。「結局、我々の将来の指導者はこれらの生徒たちから出てくるのです」と彼は言っています。

しかし、国の将来にとって最も大切な変化が最近家庭の中で起きているという点で、ドミニカの会員たちの意見は一致しています。ラファエル・ディローネとミレディ夫人の5人家族が教会に入った後、「隣人も私たちの家族が仲良くなったのを見て祝福してくれました」とラファエルは言っています。彼は高等評議員で自宅で靴屋を営み、家族と共に毎日を過ごしています。家族がバプテスマを受けて、夫婦の関係が目に見えて改善されたため、家族のきずなは強められました。「以前、私たちはひどい家族でしたが、今は、どのようにお互いを愛すればいいのかわかります」とミレディは言っています。

こういった会員たちのおかげで、ドミニカの指導者たちは成長に伴う痛みを楽天的に受け止めています。将来は多分また違った困難があるでしょう。しかし、多くの会員たちは、M・ラッセル・バラード長老の奉獻の祈りに望みを託しています。「長老は天父にいくつかのすばらしい祝福をお願いしました」とロドルフォ・N・ポードンは回想しています。彼と6人の家族はドミニカ共和国で初めての会員でした。「長老は特に我々が自身を導くことができるように、また我々の種族、国民が教会を祝福できるように祈られました。もちろんキンボール大管長がその道を備えてくださったのです。見てください、すべては成就しつつあります。」□

* ジェド・バンデンバーク兄弟、エリザベス・バンデンバーク姉妹：ソルトレーク・グラナイトパークステーキ部グラナイトワード部所属

証が持てるように子供を助ける

教会が使われている証という言葉は、永遠の真理に対する霊的な確信を意味しています。証には神が天の御父であり、私たちを愛してくださっていること、また私たちをお造りになったこと、そして御子イエス・キリストの贖いの犠牲を通して、私たちのためにすばらしい計画が備えられていると確信することなどがあります。証は教義や経験、霊の財産などを預金する霊的な銀行口座にたとえられることがあります。それは何か疑問が生じたときや神聖に保っている真理について試しを受けたとき、その蓄えがとても頼りになるからです。力強い証があれば、落胆や失望、疑いに翻弄されることはありません。このような証は私たちに確信を与え、より良いことを行なうように鼓舞してくれます。

証の必要性

ヒーバー・C・キンボール長老は人が自分で証を得ることの必要性についてこのように語っています。「困難に直面したときのためにこのみ業が真実なものであることを自分の力で知る必要がある。……いかなる男も女も借りものの光では耐えられない時が来る。一人一人が自らの内にある光によって導かれなくてはならなくなるであろう。この光がなくてどうして耐えることが

できるだろうか。」(オルソン・F・ホイットニー「ヒーバー・C・キンボールの生涯」p.450)

子供たちが自分の信仰をはぐくむのに、まず頼りになるのは両親の信仰です。子供たちは両親の証や、信仰のランプに輝く借りものの光に頼っているのです。しかし、彼らが成長し、人生の大きな試練に直面したとき、自分自身の光を持っていなければそれに耐えることはできません。

両親は子供たちが天父と救い主についての証が得られるように、様々な方法で助けることができます。たいいていの子供にとっては両親の模範が一番大きな力となります。救い主の生涯を私たちの模範とするなら、救い主を基とした生活を送り、生きた信仰がもたらす力を子供たちに示すことができます。

私たちの内にある光は、家庭環境にも影響を及ぼすようになるでしょう。子供たちが確かな信仰を築けるようにするための一番大切な方法のひとつは、実は、キリストを中心とした霊的な家庭を築くことなのです。

霊的な家庭とは

- キリストの福音を学び、話し合い、実行する家庭
- 父なる神とイエス・キリストが確かに生きておられるという堅固な証の

上に築かれている家庭

- 聖霊が宿る家庭
- 物事を福音の原則に添って決める家庭
- 物質的なものによってではなく、愛と一致、分かち合いによって幸福を感じる家庭
- 一人一人の成長や進歩を尊び、促す家庭
- 個人の祈りと聖典学習、瞑想を行なう家庭
- 一人一人を受け入れ、それぞれが最善の状態に到達できるよう愛情を込めて励ます家庭
- 競うことよりも協力することが大切であり、「私」よりも「あなた」を優先する家庭
- 秩序と清潔さを保つ家庭

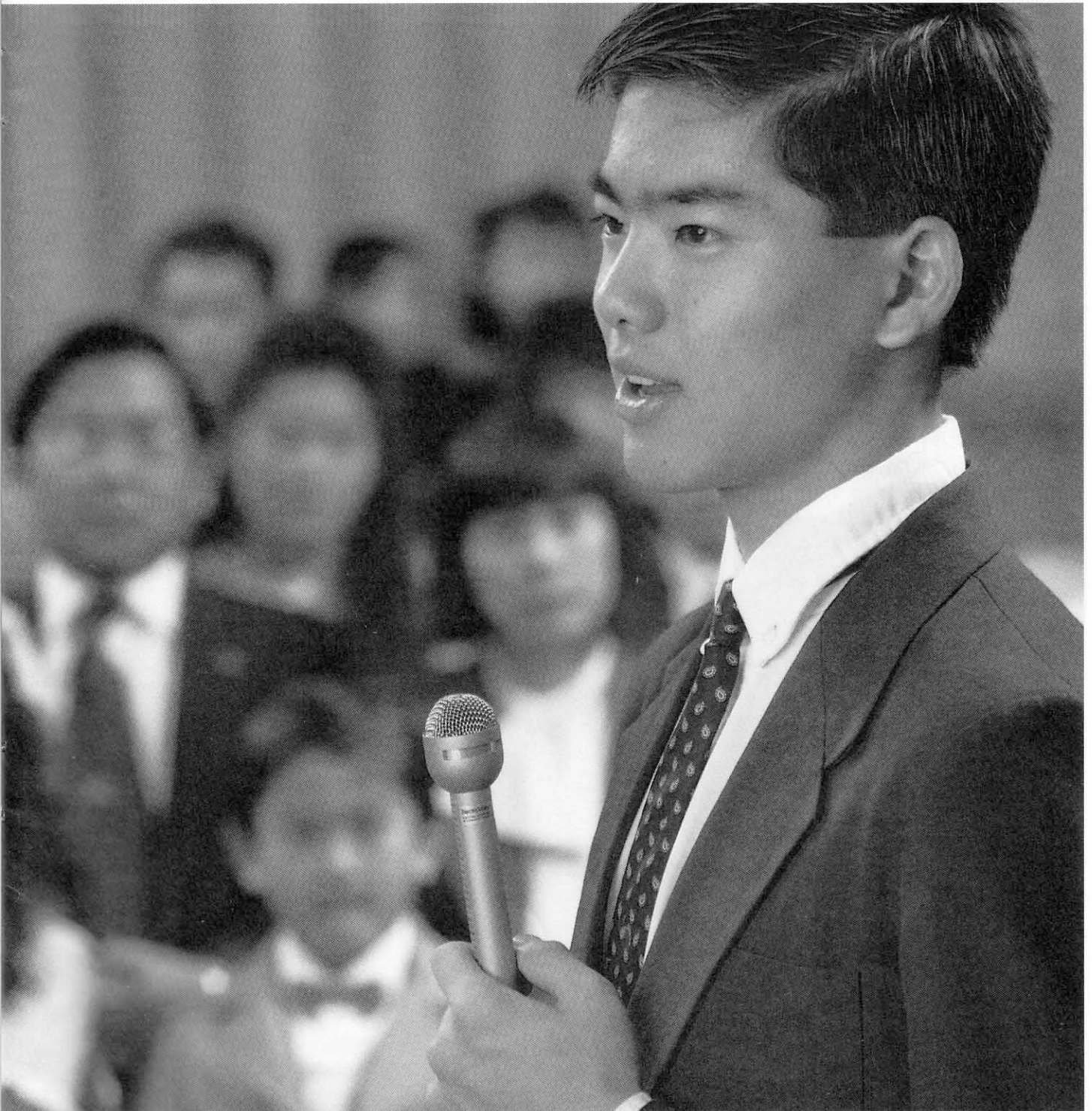
このリストは皆さんをがっかりさせるために紹介したものではありません。これらすべての特質を一時に備えるのは、どの家庭にとってもむずかしいことだと思います。しかし、子供たちに確かな信仰を築かせたいと望む両親なら、きっとそのような家庭を現実に行なおうと努力するでしょう。

信仰に満ちた言葉

私たちは、子供にとにかくはっきりと物を言いがちですが、両親の言葉は子供にとっては非常に重要であり、力を

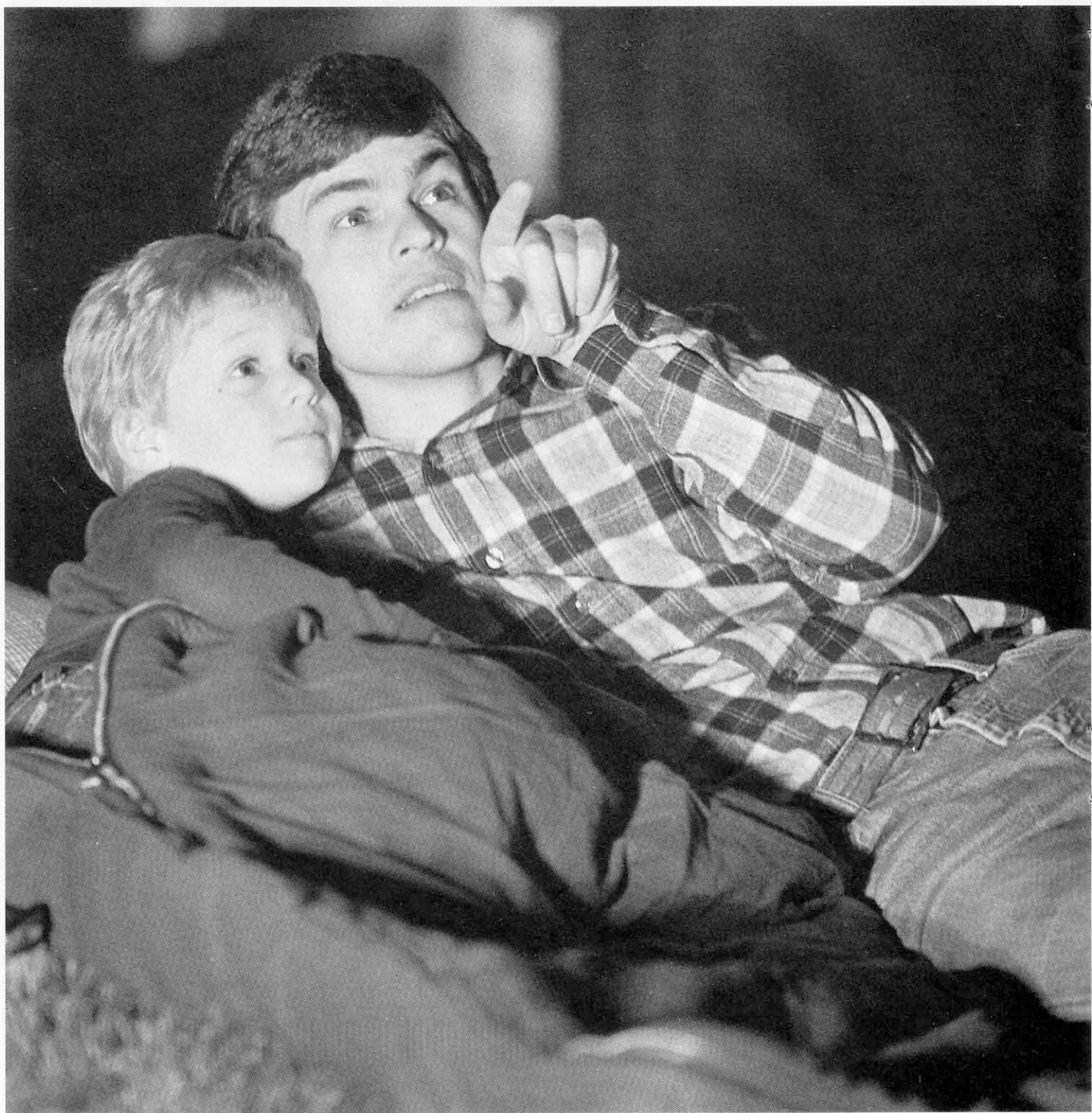
子供たちが自分の信仰をはぐくむのに、
まず頼りになるのは両親の信仰です。
子供たちは両親の証や、信仰のランプ
に輝く借りものの光に頼っているので

す。しかし、彼らが成長し、人生の大
きな試練に直面したとき、自分自身の
光を持っていなければそれに耐えるこ
とはできません。



型にはまらず自然に証を述べる機会はいつでもあります。それが同時に、「教える機会」となることもよくあります。そのようなときこそ子供たちが素直に

両親の証を受け入れ、親にとっても心から福音を教えるのに最良の時間となるのです。



持っています。子供が両親から自分を愛しているという言葉を受け取らないとしたら、それはとても悲しいことです。親が子供に「あなたを愛しているのよ」と言うとき、子供は自分が大切な存在であると感じ、親に対する愛がさらに深まります。同じく子供たちが、両親から天父を愛しているという言葉を受け取らないとしたら、それも悲しむべきことです。親が子供に対して信仰に満ちた言葉を語る時、子供たちの天の父母に対する愛は深まります。

「家庭において子供たちの前で証を述べなさい。教会についてあなたが真実であると思っていることを、そのまま話さない。同じ屋根の下に住んでいるからといって、子供たちがそういったことをすでに知っていると思ったら、大間違いである。自分が感じている証の精神を家族も感じることができるよう、言葉に出して証しなさい。そういった意味で、家庭の夕べは最適の場であると言える。」(ローレン・C・ダン『どのように証を得るか』「大会報告」1972年10月)

子供たちは年齢にかかわらず、両親から証や信仰を高める話を聞く必要があります。ある原則について一度子供たちに証を述べたなら、その原則にふさわしい生活を続ける必要があります。たとえば、安息日を清く保つことの大切さについて証しておきながら、子供

たちが親の言葉に矛盾を感じるような行動を取ってはならないのです。

証を述べる機会

霊的な気持ちを表すには、いろいろな方法があるものです。たとえば、夜のだんらんの時や家族の聖典学習の時間、個人の面接や家族の祈り、または家族が集まったときなどの家族の特別な時間にはいつでも、少し時間を割いて証を述べる事ができます。総大会やファイヤサイドの後で、それぞれが聞いたことや感じたことが真実である証を述べることもできます。家族の証会を通して共に素晴らしい経験をしている家族もあります。子供たちが家庭の中で自分の気持ちを述べることに良い気持ちを感じるようになると、断食証会で証をすることも、容易にできるようになります。また両親が証をするのを聞けば、子供は自分も証をするべきであると自然に理解します。

型にはまらず自然に証を述べる機会はいつでもあります。それが同時に、「教える機会」となることもよくあります。そのようなときこそ子供たちが素直に両親の証を受け入れ、親にとっても心から福音を教えるのに最良の時間となるのです。人生の中の大切な出来事について思い出を語るなら、同時

にそれが証を述べる機会にもなるのです。生まれたばかりの子供たちを腕に抱いていたころのような気持ちだったかを母親が子供たちに話すなら、子供たちはその話を大切に覚えているでしょう。また子供たち一人一人が受けるバプテスマと確認の儀式、祝福師の祝福、また神殿結婚の霊的な意義について父親の感じていることを読んだり、聞いたりするときに彼らの証は強められていきます。

場合によっては言葉でうまく表現できないことでも、文章でなら書き表わせることもあります。ある父親はあまり率直に息子と話をする方ではありませんでしたが、息子が伝道に出てからは、自分が主に仕えることによって得た証を心を込めて毎週手紙に書き、息子を勇気づけました。

生きた証の賜

肉体と同じように、証も常に栄養を与えて育つ必要があります。主は紅海を分けてイスラエル人を渡らせ、エジプト人のもとから救った後、彼らを奇跡をもって養われました。しかしそれも、モーセがシナイ山に登っている間に民が金の子牛を鑄て崇拜したために、やんでしまいました。これと同じことが今日でもあります。だれでも自分の証を使わないまま眠らせてしまうなら、

信仰が弱まってしまいます。2年間、人に神聖な真理を伝えた帰還宣教師でさえ、その後伝道中のように証を養い育てないなら、強い証もなくなってしまいます。新会員も、証を育てるためには、教会に出席し、聖典の勉強を続けなければなりません。

ハロルド・B・リー大管長はこう語っています。「今ある証がそのままいつまでも続くということはない。証は私たちがそれをどう扱うかによって、日の光のように輝きを放つまで成長し続けるか、あるいは朽ちてしまうかのどちらかである。」(「ニューエラ」1971年2月号, p. 3)

福音に対する証は神から授かる賜です。それは証を得たいと心から望み、福音の教えを取り入れて生活するすべての人々に与えられる賜なのです。証が奇跡や目に見えるしるしによってもたらされることは、あまりありません。証は聖霊の働きによって静かに与えられるものです。また、常に聖霊を伴侶とすることによって持ち続けることができるものです。

私たちが熱心に求めるならば、智と情に証が告げられると、聖典や予言者の言葉は保証しています。

「然^{しか}り、見よ、われ今^{なんじ}汝に來りて汝の心^{うち}の中に留^{とどま}るべき聖霊によりて汝の智と情に告げんとす。そもそも、見よ、これは啓示の『みたま』なり。」(教義

と聖約8：2-3)

私たちは親として、子供たちが自身自身の人生を導く内なる光を持つことができるように望んでいます。親が子

供たちにこの光を持てるよう手助けするために使う時間は、子供たちと共に過ごす時間の中でも、最も価値があるといえるでしょう。□

聖句

聖典には、主を愛する霊的な心を持った子供を育てることの大切さについて繰り返して述べられています。以下に示すいくつかの聖句は、永遠の生命に続くまっすぐで狭い道へ導く強い証を子供たちが持てるようにするうえで、両親にとって指針となるものです。

出エジプト18：20

子供たちに神の律法を教える。

申命6：5-7

あらゆる機会を捕えて子供たちに神の戒めについて教える。

箴言22：6

子供を幼いうちから訓練する。

ルカ15：11-32

過ちを犯しても心から赦す。

エペソ6：4

子供を怒らせないで「主の薫陶^{くんとう}と訓戒とによって、彼らを育て」る。

II ニューファイ 2：25

子供が幸福を見いだせるように助ける。

モーサヤ4：14

子供たちの物質的な必要を満たし、争いを避けるように教える。

モーサヤ4：15

互いに愛し、助けることを教える。

教義と聖約68：25

信仰、悔い改め、バプテスマ、聖霊の賜についての原則を教える。

教義と聖約68：28

「祈ることと、主の前に正しく歩むこと」を教える。

教義と聖約93：40

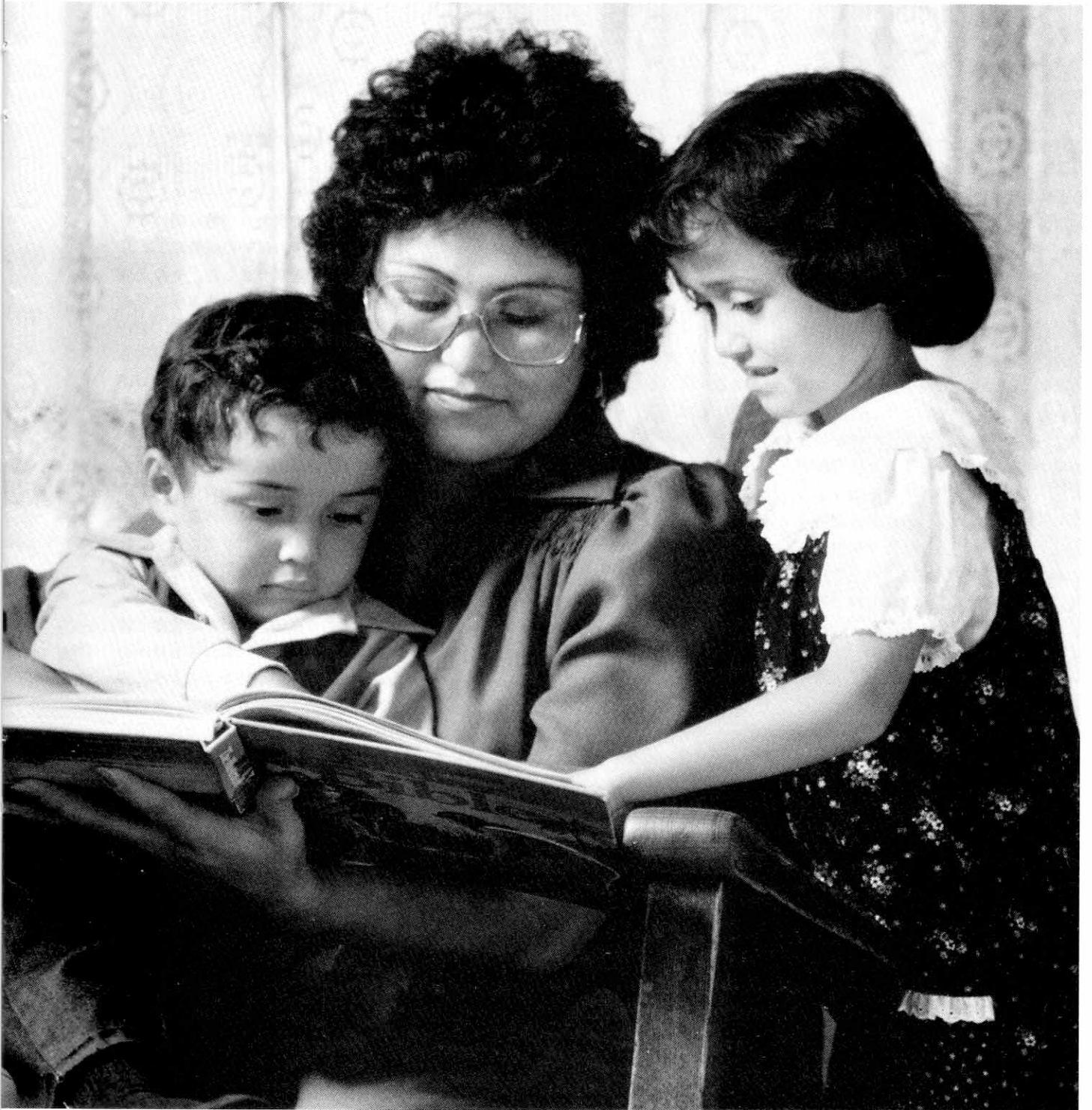
子供たちを「光明^{こうみょう}と真理^{まこと}の中」に導く。

教義と聖約121：43

みたまの導きに従って、過ちを正す。

私たちは親として、子供たちが自分自身の人生を導く内なる光を持つことができるように望んでいます。親が子供たちにこの光を持てるよう手助けする

ために使う時間は、子供たちと共に過ごす時間の中でも、最も価値があるといえるでしょう。



PHOTOGRAPHY BY LONGEN LOWCZYNA, JR.

神の目から見た人の値



私たちは前世で天の両親のもとに生まれ、霊的にはぐくまれ、救いの計画を教えられました。進歩するための次の段階を楽しみにしながら、私たちは「喜び呼ばわった」(ヨブ38:7)のです。高価なる真珠の死者の贖いに関する示現1章56節には、私たちは「霊界において基本的な教えを受け、主の定められた時に出て行って人を救うために主のぶどう園で働く準備をしていた」と記されています。

知恵深き天父は、私たちすべてがこの世で同じ仕事をやるようには召さず、また一人一人異なった才能をお与えになりました。私たちはみずから進歩成長し、またほかの人の生活を祝福することのできる場所と時に、地上で生を受けたのです。一人一人の女性はそれぞれ独自の人生と使命があり、計り知れない価値を持っています。

前世での生活を理解することは、今日の世の中であって女性として果たすべき使命を認識するためにどのように役立つでしょうか。

一人一人が果たす役割の重要性

各人の人生と使命の重要性について、H・パーク・ピーターセン長老はこのように説明しています。「皆さんは、天父が偉大な業をなす可能性を与えず、ただ思いつくままにご自分の子供たちをこの世に送られたなどと、一瞬たりとも考えたことはないだろうか。……皆さんは特別な使命を果たすためにこの時代に地上に来るように、長年天にとどめおかれた。ほんの何人かではな

く、皆さん方全員がそうである。皆さん一人一人には、ほかの人にはできないこと、皆さんにしかできないものがある。……もし神に頼ってそれを行なうならば、天父は生涯皆さんとともにいて、靈感を与え、この世におけるあなたの特別な使命を教えてください。1980年6月号、pp.32-33)

あなたに与えられたチャレンジは、あなたの人生に主の導きがあることを認識するのにどのように役立ってきましたか。

聖典から受ける導き

私たち各自がこの世の人生を正しく歩むために導きを得る最もよい方法は何でしょうか。導きを求める最も確かなよりどころのひとつは、聖典です。詩篇の中にはこのように述べられています。「あなたのみ言葉はわが足のともしび、わが道の光です。」(詩篇119:105)日々聖典を研究することを通して私たちは主のみ言葉を理解し、主のみどころに沿った行ないをしているという確信が持てるようになります。

あなたの好きな聖句はあなたの人生にとってどのような導きとなりましたか。

ほかの人の模範の重要性

ラモーナイ王に仕えていた女性エーピシは、アンモン、ラモーナイ、^{きさき}後をはじめすべての僕たちが地に倒れるのを見たとき、それは神の威勢によるものであることを知りました。その光景を見たら人々は主を信じるようになるに違いないと考えたエーピシは、急いで家から家へ走り回ってこの出来事を人々に知らせました。(アルマ19:16-17参照)

ハンナは子供がなかったので悲しんでいました。彼女は主に祈り、もし男の子を賜わるならば、その子を一生主の幕屋で仕えるように捧げると誓いました。主はハンナの祈りにこたえられ、ハンナは自分の約束を果たしました。(サムエル上1章参照)

ハンナの使命がエーピシの使命とは異なっていたように、私たちもほかの人とまったく同じ奉仕をするように召されているではありません。私たちの持っている多様性ゆえに主の王国は一段と強められるのであり、それは神のみどころなのです。しかし、ほかの人の模範を見ると、私たちは最善を尽くしたいと願い、自分が価値ある存在であると感じることができるようになります。だからこそ私たちはそれぞれに与えられた独自の人生と使命に喜びを見だし、ほかの人の貢献を尊重しようではありませんか。

ほかの人の模範は、女性として持っている自分自身の価値を感じるためにどのように役立ってきましたか。□

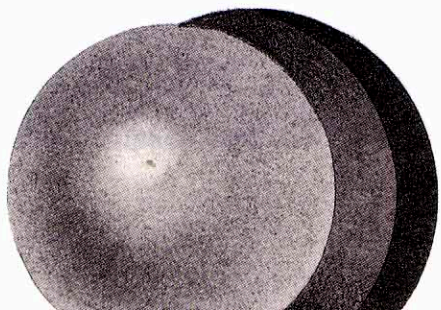
しつけの アイデア

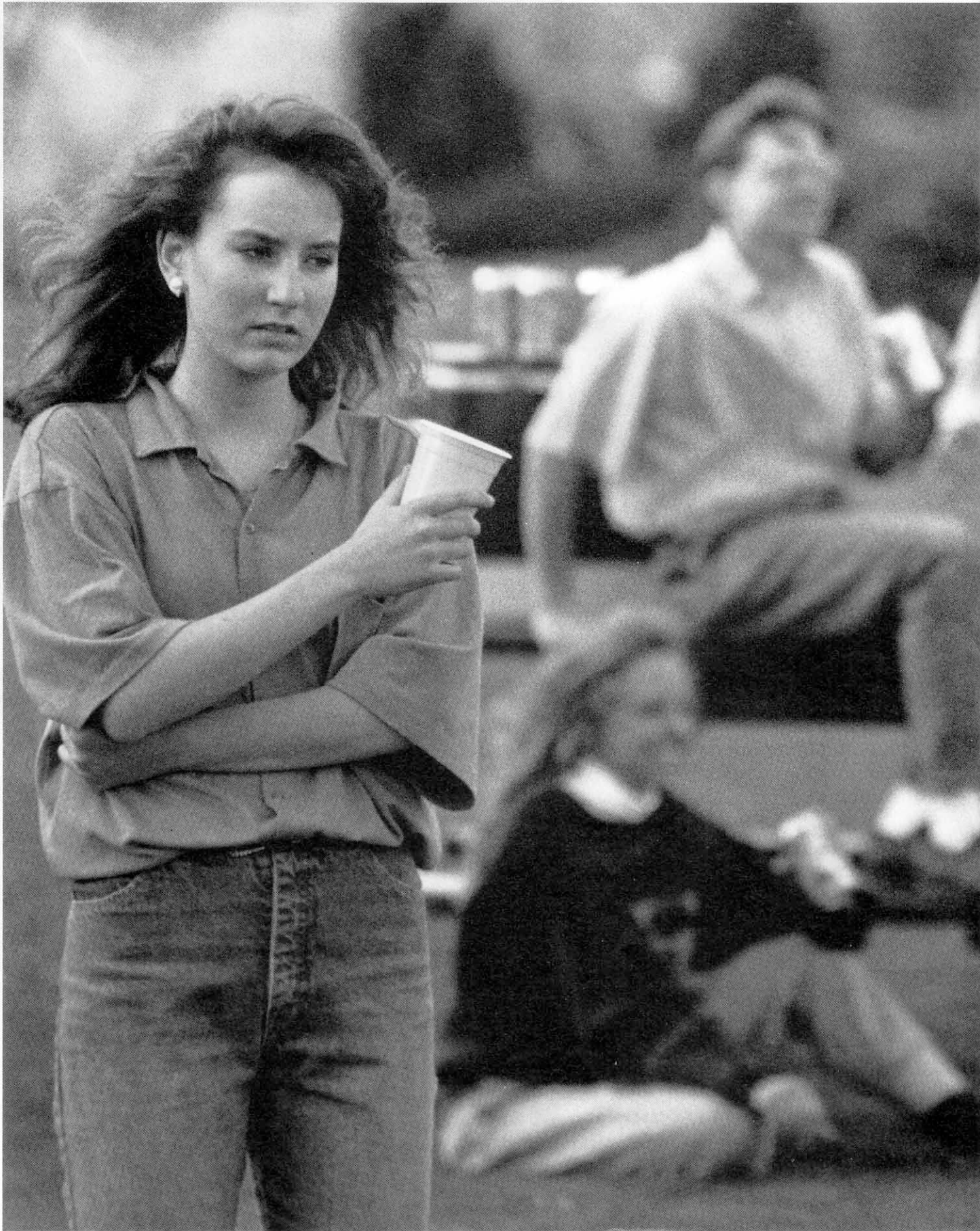
マリリン・ウィッティカー

ある日のことです。9歳になる息子が、弟に腹を立てて怒鳴り声を上げました。以前からこのふたりは、たびたびけんかをして私を困らせていました。でもこの日は違いました。けんかをやめさせるともよいアイデアがひらめいたのです。上の息子を自分の部屋にやり、弟の良いところを10カ所書き出すまで、出てきてはいけないと言いました。しばらくして、息子がリストを持って出てきました。その態度は部屋へ入る前とはすっかり違っていました。弟の良いところを探している間に、悪い思いや気持ちはすっかり消えてしまったのです。

以来、我が家ではよくこの方法を使うようになりました。家庭の中に愛を絶やさないようにするうえで、これは大変役立っています。そればかりか幼いときに他人の長所を見つける習慣を身に付けておけば、自分も幸せになり、大人になってから接する人々とよい関係を築く助けとなるでしょう。□

ILLUSTRATED BY LORI ANDERSON





麻薬使用の誘いを断わるには

これまでのところ、私にアルコール飲料を飲ませたり麻薬を使わせたりする人はいません。私は心から知恵の言葉が神の戒めであると信じていますが、アルコール飲料や麻薬をはっきり断わる勇気が自分にあるかどうか自信がありません。私は相手の誘いを拒否したり、他人の気持ちを損ねたりしたくないのです。アルコール飲料や麻薬に決して手を染めることがないようにするには、どうしたらよいでしょうか。

本誌の答えは問題解決の一助として与えられたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

回...答

まず、アルコール飲料や麻薬の誘惑に直面することや、拒否した場合の人間関係を心配しているのはあなただけではない、ということをよく認識する必要があります。

缶ビールを手にした友達のしつような誘いを受けるずっと以前から、準備を始めることが必要です。それがあなたの質問に対する答えです。アルコール飲料や麻薬は決して自分の益にはならないこと、自分は何があってもこれらに手を出さないということを、今から自分の心に銘じておかなければなりません。

その決心を確かなものとするには、まず次のような事実を知らなければなりません。麻薬やアルコール飲料は気分を変える強力な化学物質で、人体、特に神経組織に有害だということです。いわゆる「快楽」を生み出す脳内の薬物反応の過程で、使用者の肉体は損なわれ、心は毒され、霊は破壊されます。天父はこれらの物質を避けるようにという医学的にも賢明な勧告を私たちに与えておられます。

これらの化学物質をとらないという自分自身の決心ができれば、次にあなたは麻薬やアルコール飲料と関係する人、場所、状況を避ける方法を見いだす必要があります。ある賢明な父親は、暗い場所を避けるように子供たちに助言しました。成果を上げているある麻

薬とアルコールからの更生プログラムでは、麻薬の使用をやめた若者に、誘惑を避けるために新たな関心の対象を探し、新しい友達を見つけるように勧告しています。

あなたの最善の努力にもかかわらず、有害な物質を使用する誘いは依然としてなくならないでしょう。そのときに備えて、あなたはどのような言い方ではっきり断わるか、よく考え、練習をしておく必要があります。アルコール飲料や麻薬を使用しない友達、両親、青少年の指導者、セミナーの教師、監督などから助言を受け、彼らとはっきり断わる練習をしてください。そうすれば、実際に誘惑を受けたときどのような言動を取ればいいのか、はっきりわかるでしょう。

また、はっきり断わるができないのは自尊心や自分を大切に思う思いに欠けるためかもしれません。この点にも注意すべきです。ほかの人からの誘いをはっきり断わり、害悪を避けるために自分の行動に枠をはめることが、ときに困難な場合があります。それは私たちの自己を尊ぶ感覚が鈍くなっているためです。

自尊心、言い換えれば自分をどう考えるかということは、行動を通して培っていくものです。良い行ないを続け、成功を経験し、才能を伸ばし、自分が成長していると感じるにつれて、私た

ちは自分をより積極的に評価するようになります。たとえ小さくても成功を経験できるよう努力し、実現してください。そうすれば自分が周囲の人から尊重されるに値する人間であると思えるようになるでしょう。そのようになれば、必要なときにはっきり断わることが、ずっと容易になります。

自分を愛することは、あなたが自分自身に与える贈り物です。天父は、罪人であろうと聖徒であろうとすべてのご自分の子ら^らを無償で愛し、あなたの持つ神聖な価値のゆえに、あなたをこの上なく尊重しておられます。自分が神の子であることに気づくなら、あなたも同じように無条件の愛という贈り物を自分自身に与えるべきではないでしょうか。ひとたび神のあなたに対する愛を味わいその愛に包まれていることに気づくならば、自分の神聖な可能性を損なうことがないように、相手がだれであつてもはっきり断わる決断をすることが容易になるでしょう。

最後に、救い主に従う者として私たちがする選択が世の人々に受け入れられないとしても、正しい道を選んだことから大きな喜びと祝福がもたらされることを知ってください。山上の垂訓の中でイエスはこう言われました。

「義のために迫害されてきた人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである。」(マタイ 5:10)

あなたを深く愛しあなたをだれよりも知っておられるお方にあなたの信仰の基を置いてください。そうすれば主は、あなたの直面するほかの試練の場合と同じように、あなたの決心が守れるように助けてくださいます。自分で正しいとわかっていることを行なえるように勇気を祈り求め、それを実行してください。あなたが実行するにつれて、健康な身体、明晰な頭脳、強い霊性という祝福を受けられるでしょう。

青少年の意見

私はあなたが避けたいと望んでいる過ちとよく似た過ちを犯しました。というのも私が友達——それは見せかけの友達にすぎませんが——から受け入れてもらえなくなることを恐れたからでした。これは私の犯した過ちの中で最大のものでした。それからの8年間、私はその習慣の奴隷になりました。私は今そこから更生しつつあります。

麻薬のために人生を大切にしようとする気持ちが次第に弱まっていきました。すべての望みを失う一步手前で、私は人生の方向を変える決心をしました。私を縛って引き戻そうとする縄を断ち切るために、「友達」から逃れる必要がありました。

今は自分を深く愛しているので、だれも私の自尊心を弱めたりぐらつかせたりすることはできません。私はあなたのことを直接には知りませんが、あなたがなりたいと望んでいるような理想の人間に私もなりたいと思っています。あなたが自分自身を守るために友達を失うことになっても、断じてその道を選んでください。たとえ友達があなたに誘惑に屈するよう強いても、志を曲げてはなりません。

匿名希望

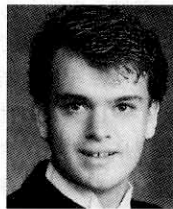
同年代の仲間からのしつような誘いに打ち勝つ鍵は、はっきり断わるのだと今から決心を固めることです。そしてそのような状況になったときには、すぐさまはっきり断わるのです。そうすることで、あなたの断固たる気持ちがほかの人々にもわかってもらえるのです。あなたがほかの人々に対してその後も誠実であるならば、たいいてい人はあなたの決心を尊重します。それでもあなたの決心を尊重しない人がいるなら、そのような人は真の友ではありません。真の友はあなたを愛する人であって、あなたを傷つけようとする

人ではありません。イエス・キリストと天父とはあなたの真の友ですから、あなたが断わる決心をしたことであなたを祝福してくださるでしょう。主はあなたを無条件の愛で包み、ひとり放っておかれることは決してありません。あなたは神の子です。神に助けを求めてください。



アイダホ州ライリー
ジェーソン・ホイラー(18歳)

主は末日の青少年が経験する試練や困難をすべてご存じです。主はいつもあなたを助けるためにそこにおられ、あなたを愛しておられます。このことを忘れなければ、誘惑に打ち勝つための確かな力が得られるでしょう。ニーフアの信仰に満ちた言葉を忘れないでください。「主が命じたもうことには、人がそれを為しとげるために前^もてある方法が備えてあり、それでなくては、主は何の命令も人に下したまわらないこと」(Iニーフア3:7)を信じてください。



アリゾナ州チャンドラー
クリスティーナ・ミッシェル・リッグズ(17歳)

高校生活の中でとりわけむずかしい問題のひとつは、仲間からの誘いにどう対処するかということであると、私は思います。普通の人と違った行動を取ることは、ときとして非常に不安なものです。仲間から拒否されることを望む人はいません。しかしあなたの友達の多くは、本当はアルコール飲料を飲んだり、喫煙したり、麻薬を使用することを望まず、ただそれをはっきりと口に出すのが怖いだけであることを知ったら、あなたは意外に思うでしょう。

私の高校には500人の生徒がいましたが、末日聖徒は私を含めてたった3人でした。16歳の誕生日に私はパーティーの招待状を50通、出しました。招待状の下の行には「アルコール飲料、たばこ、麻薬は一切出ません」と書きました。その招待状を発送したとき、両親と私はだれもパーティーに来ないのではないかと心配しました。しかし、実際は、招待した50人のうち35人が来てくれました。

その約1カ月後、私はある友達のパーティーに招待されました。その招待状の最後の行には「アルコール飲料、たばこ、麻薬は一切出ません」と書かれていました。その後2年間にわたって同じような内容の招待状を数多く受け取りました。

あなたのすべきことは、自分のすべきことを今しっかりと決め、あくまでそれを守り通すことです。真の友達ならあなたをありのままの姿で受け入れてくれるでしょう。あなたの友達は酒類を口に、喫煙を続けるかもしれませんが、ひとたびあなたが礼儀正しく「私はたばこは吸いません」(または「アルコール飲料は飲みません」など)と言えば、それ以上強く勧めることはないでしょう。それでも、引き続きしつように勧めるなら、ありのままのあなたとあなたが守る標準を受け入れてくれる、新しい友達を見つけるべきです。

フロリダ州メリットアイランド
ミッシェル・サイバート(21歳)

これまであなたにたばこを勧める人がだれもいなかったのなら、あなたは幸運です。私はそのような幸運には恵まれませんでした。

事の起りは次のようなものでした。私は夕食のつもりで友達と出掛けたのですが、車が出発してから、私の一番の親友が本当はだれかの家のパーティーへ行くのだと教えてくれました。私はすぐに自分の家に送り返してくれるように言うことができず、そのまま同行してしまいました。それが第1の失敗でした。第2の失敗は、自分ひとり飲まないのはばかげて見えるにちがいないと思ったときでした。それで私は誘いに負けて、2、3杯飲みました。そこから私のアルコールの問題が始まりました。

アルコールという名の牢獄^{ろうごく}に入れられたときの気持ちがどんなものであるかは、味わった者にしかわからないだろうと思います。現実に対する感覚がまひして、ついには自分のすることがどうでもよいと思うようになります。ですから用心してください。ただ用心するだけで、涙をたくさん流したり、心を痛めたりせずに済むのです。おそらく自分の命さえ救うことになるでしょう。

たとえ鉄の棒から離れて迷い出ても、戻る道のあることをいつも覚えていてください。しかし、鉄の棒から手を離さなければ、激しい苦痛や時間の浪費を避け、恥ずかしい思いをせずに済むのです。

何よりも天父はあなたを愛するあまりそのひとり子さえ賜ったことを忘れないでください。どうかこのことを軽く考えないでください。

匿名希望

私にはあなたの気持ちがわかります。同じような問題に出遭ったことがあるからです。友達があなたに何らかの麻薬やアルコール飲料を口にするのを

勧めたら、はっきり拒否してその場を去ってください。相手はあなたの意志の強さに敬服するでしょう。

自分は麻薬やアルコール飲料を決して口にしないと、前もって自分に言い聞かせてください。それがむずかしいことは私も知っています。しかし、最初にはっきり断われば、その次に断わるのはずっとやさしくなります。幸運を祈ります。

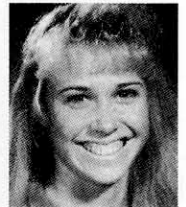


カリフォルニア州ヒューサン
アンディー・ジョンソン(15歳)

一番大切なことは、あなたがよく知っていて信頼が置け、良くないものを無理に勧めることを決してしないような人々と一緒にいることです。現代の社会の中で、麻薬やアルコール飲料の問題はきわめて切実な問題です。したがってこうした問題を抱えている人ではなく、もっとしっかりした相手を友達に選ぶ必要があります。しかし、最も大切なことは、自分自身を知る必要があるということです。私は自分が誘惑に勝つ自信の持てない場所や、知恵の言葉を破るように誘われるような場所には決して行きません。そのような場所は標準を下げてまで行く価値のある所ではないのです。

麻薬やアルコール飲料を口にするように誘惑する友達ではなく、そういうものからあなたを守ってくれる友達を作ってください。自分を見失わず、自分が正しいと知っていることを断固として守ってください。主を信頼してください。主に勝る友はありません。また、あなたの友達が真の友なら、あな

たにとって良くないことを強いて行なわせようなどとは考えもしないでしょう。



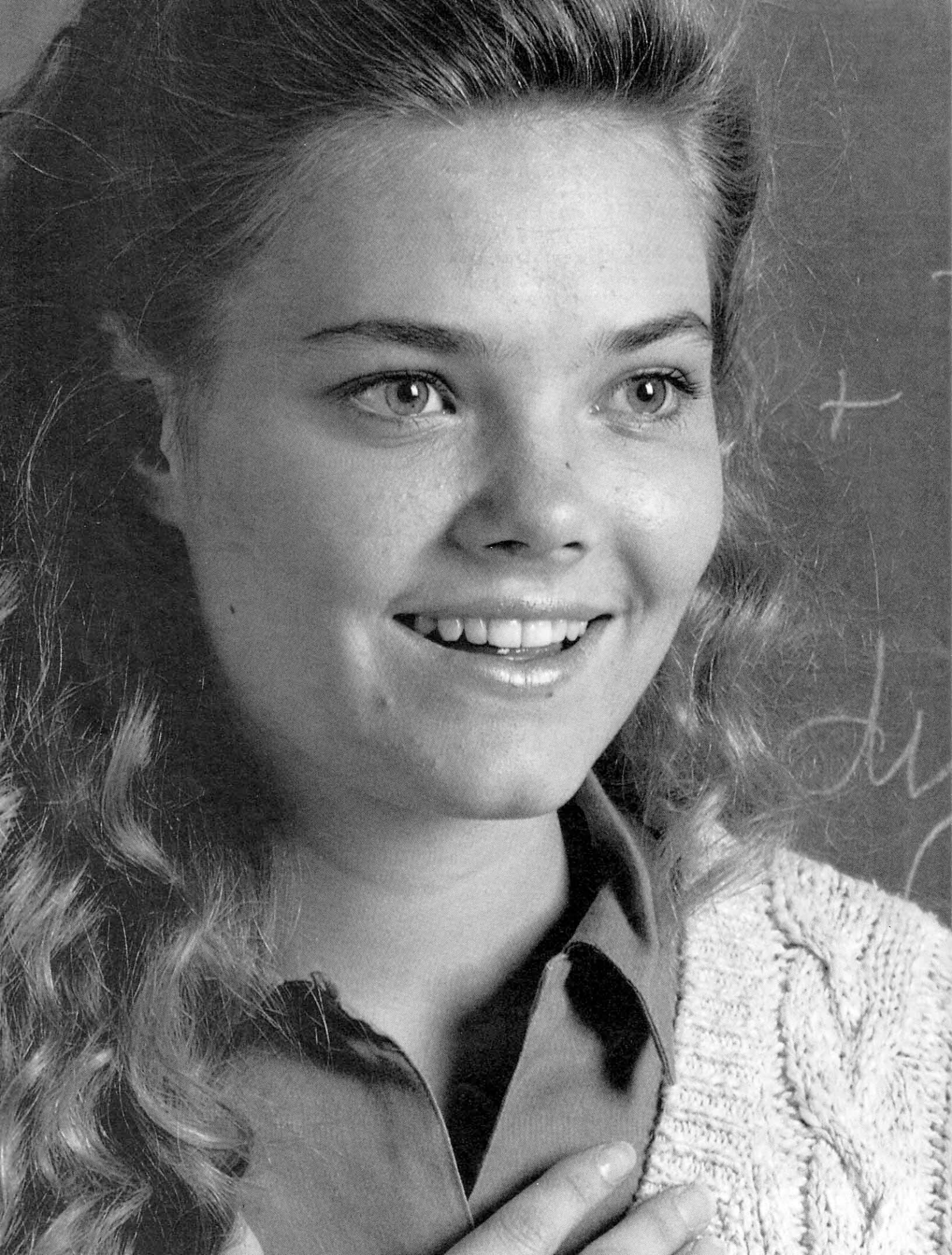
カリフォルニア州フィーラン
リーサ・M・エアーズ(16歳)

私にもあなたの気持ちがわかります。はっきり断わるのはとても怖いことです。私は学校で麻薬やアルコール飲料を勧められます。麻薬やアルコール飲料が体にどのような作用を及ぼすか知っていますが、それでも私は「どうしよう。麻薬やアルコール飲料が良くないことはわかっている。けれども友達に欲しいし、失いたくない」と思うのです。

私たちは試されているのです。私は祈って、教義と聖約89章7節を思い出しました。「また言う、強き飲料は腹のためならず。ただ汝らの体を洗い清むるためなり。」また、主は私たちに耐えられないような試練はお与えにならないという約束(1コリント10:13)も思い出しました。

主はあなたを愛しておられ、あなたを失いたくないと思っておられることを、忘れないでください。主は必ず助けてくださいます。

ニューハンプシャー州ロチェスター
ベンジャミン・ゴッドフリー(15歳)



心に確かなもの

シャーリー・ブレン

クラスが始まろうとしています。私は雷におびえる猫のように不安でした。

出席を取り終わるとケネスのスピーチから始まることになっていました。私の番まではあと15分から20分ぐらいでしょう。「どうして私がきょうスピーチをしなければならないのかしら。なぜ私は『有名なアメリカ人』にジョセフ・スミスを選んでしまったのかしら。」私は心の中でそんな自問を繰り返していました。

先生も含めてこのクラスの大多数が浸礼派の信者でした。私はこの中でただひとりの末日聖徒なのです。ジョセフ・スミスについてのスピーチをすること、それは私にとって勇気の要ることでした。

ケネスのスピーチがもう終わりに近づいています。ドワイト・D・アイゼンハワー大統領についてのスピーチに質問をする生徒はだれもいませんでした。

さあ、私の番です。

「私の『有名なアメリカ人』はジョセフ・スミスです。ジョセフ・スミスが生まれたのは……。」私はこんなふうにスピーチを切り出して、だいたい10分で終わりました。まああの時間でしょう。「何か質問は？」先生が皆に尋ねました。

クラス中がしんとしています。だれかがピンを落としたりとしても、おそらくその音が聞こえたことでしょう。

「それなら私が質問します。」先生が言いました。「ジョセフが始めた教会の名前は何かというのですか。」

一番大切な部分を言い落としていることに、私は気づいていました。「末日聖徒イエス・キリスト教会です。一般にはモルモン教会として良く知られています。」

これをきっかけに質問が始めました。「金版はどこにあったのですか。」「モロナイとはだれのことですか。」

「どのようにして金版を手にしたのですか。」それから、そうです、お決まりの質問が出ました。「多妻結婚をどう思いますか。」このときには私はかなり気分がよくなっていました。私はすべての質問に答えられたのです。そして、ひとりの生徒が次のような質問を投げかけました。私はおそらくこの生徒に感謝をし続けることでしょう。

「あなたはどのようにそれが真実だと言えるのですか。」

私はこの質問に感動しました。そのとき私は心の中に、または教室の中にはっきりとみたまを感じていたのです。

私はその質問の主を見て言いました。「ビル、ほかのそれが何と言おうとも、あることが絶対に正しいと感じたことがありますか。それは紛れもなく真実ですね。あなたの心の中にある確かなもの、それはだれにも変えることはできません。」

クラス中が黙ってしまいました。先生でさえ返す言葉がありません。

私はビルに対する感謝を忘れないでしょう。私には証があります。それは心の中にだけとどめておいてはいけないのです。ビルのおかげでそのことに気づきました。

質問に答えて、私は30分以上も皆の前に立っていました。休み時間に入ったことにも気づかずにいたほどでした。私はそのあと、楽しい気分を一日を過ごしました。

このことで多くの人が福音について知りたがっているのがわかりました。自分の知っていることをほかの人にも教えてあげること、それは私の義務なのです。□

カール・ヘンリック・ブロック(1834—90)が描く キリストの生涯

第2部

デンマークの画家カール・ヘンリック・ブロックの描くキリストの生涯から、前月号ではいくつかの作品を紹介しました。2回にわたるこの特集の第2部では、ブロックの作品からさらに皆さんに紹介し、あわせてこの練達の画家の生涯を追ってみたいと思います。

ここに登場する様々な場面は、言うまでもなく、ブロックの想像力と技量によって生み出されたものですが、商家の息子として生まれたこの画家は、少年時代、海軍の将校となるべき道を歩んでいました。ところが、十代初期のころから少年カールは画才を発揮し始め、1849年、15歳の時にコペンハーゲンにある芸術院に通うようになりました。こうして20歳で作品が展示され、25歳で留学奨学金を付与されてローマへ行き、1865年までその地にとどまりました。

ブロックは、ローマでイタリアの偉大な芸術家たちが残した作品に触発され、人の心を動かす高邁な出来事を描くことに次第に熱中するようになります。そうした彼の関心は最終的にはデンマークの歴史上の事件や聖書の物語という題材に沈潜していきましました。ブロックは、内に秘めた決意によって、生涯、デンマークの傑出した画家として人々から尊敬されました。晩年には、王立芸術院の総長となり、彼の作品は諸外国からも榮譽を受けました。

イタリアでの勉強が終わりに近づいたころ、31歳になっていたカール・ブロックのもとに非常に魅力的な仕事の依頼が舞い込んできました。再築されたフレデリクスボル城の付属チャペルのために23枚の絵を、新しく描くことになったのです。このチャペルは1859年

の火災で焼失していたのでした。(ブロックはこの3年後に美しくやさしい女性アルマ・トレブカと結婚し、8人の子供に恵まれています)彼は14年の歳月をかけてこのチャペルの絵の制作に取り組みました。デンマークの美術評論家たちの言葉によれば、ブロックの画風は現代的でありながら独自の様式を持ち、イタリアでの生活をうかがわせる情景が描かれているといえます。

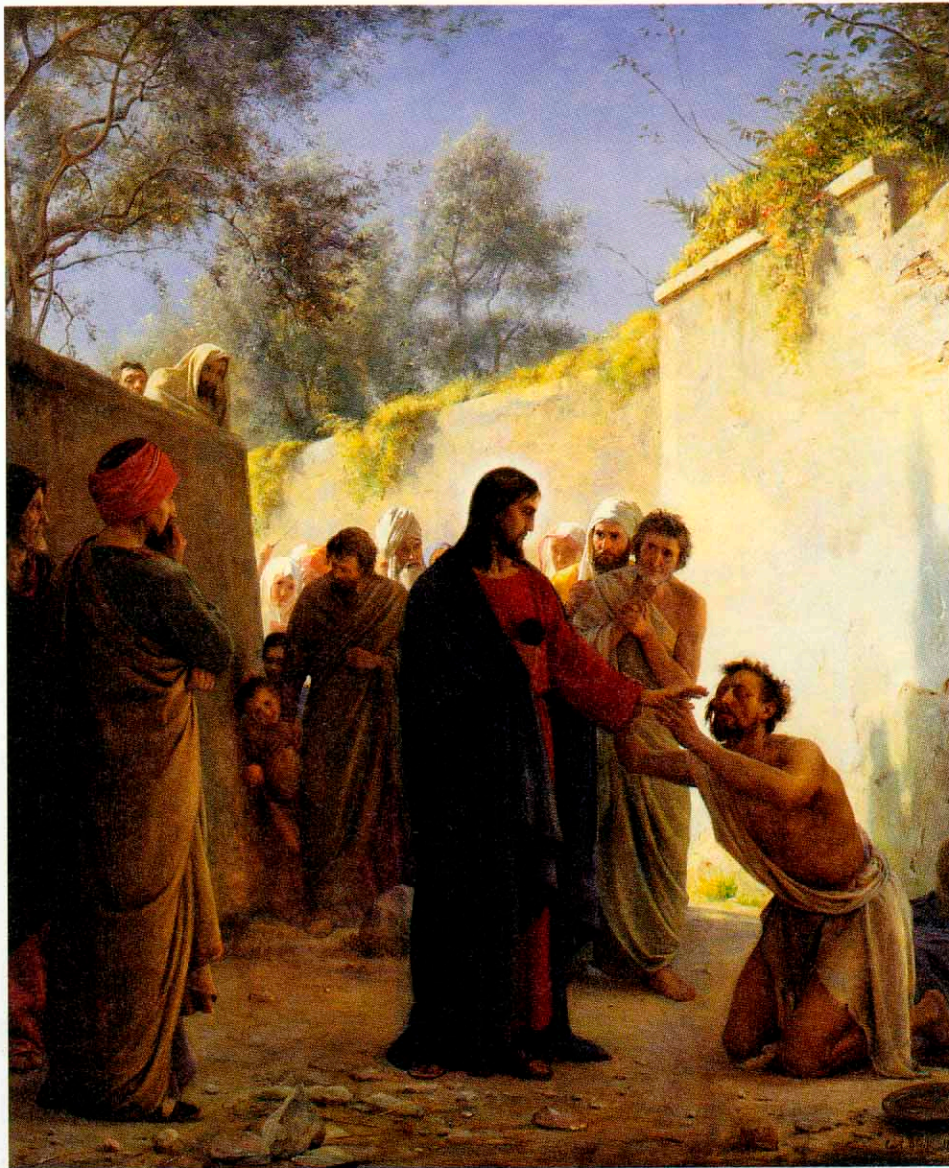
キリストの生涯を描いたこれら23枚の作品のほかに、ブロックは、同じくキリストの生涯を描いた大きな祭壇画を少なくとも8枚、デンマークのほかの教会やスウェーデンのいくつかの教会のために描きました。また、亡くなるまでの20年間、版画のひとつの技法であるエッチングも極め、この分野でもあちこちから制作の依頼を受けました。ブロックが亡くなる2年前にあるデンマーク人は次のように記しました。ブロックは「傑出した画家、版画家として同時代の尊敬を一身に集めた。」

しかし、主イエス・キリストを愛するすべての人々にとって、特別な愛着を感じるのは、救い主を題材とした作品でしょう。カール・ブロックの描く作品の中に、私たちは愛弟子ヨハネがイエスについて記した次の精神を見るのです。

「この言に命があった。そしてこの命は人の光であった。光はやみの中に輝いている。そして、やみはこれに勝たなかった。……彼は自分のところにきたのに、自分の民は彼を受け入れなかった。しかし、彼を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。」(ヨハネ1：4—5，11—12)——編集室□

「イエスは、ただペテロ、ヤコブ、ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。ところが、彼らの目の前でイエスの姿が変り、……エリヤがモーセと共に彼らに現れて、イエスと語り合っていた。」(マルコ9：2，4)

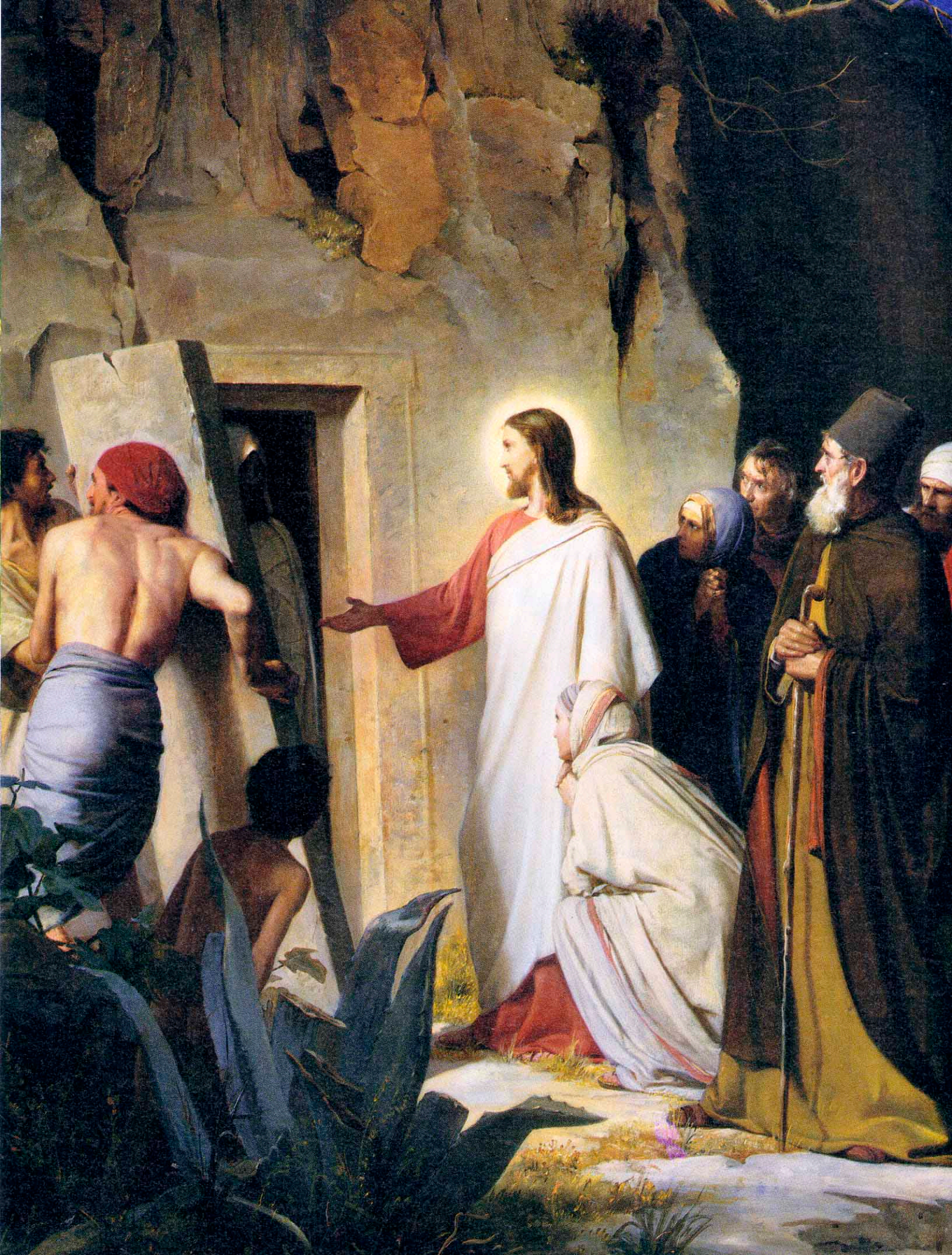


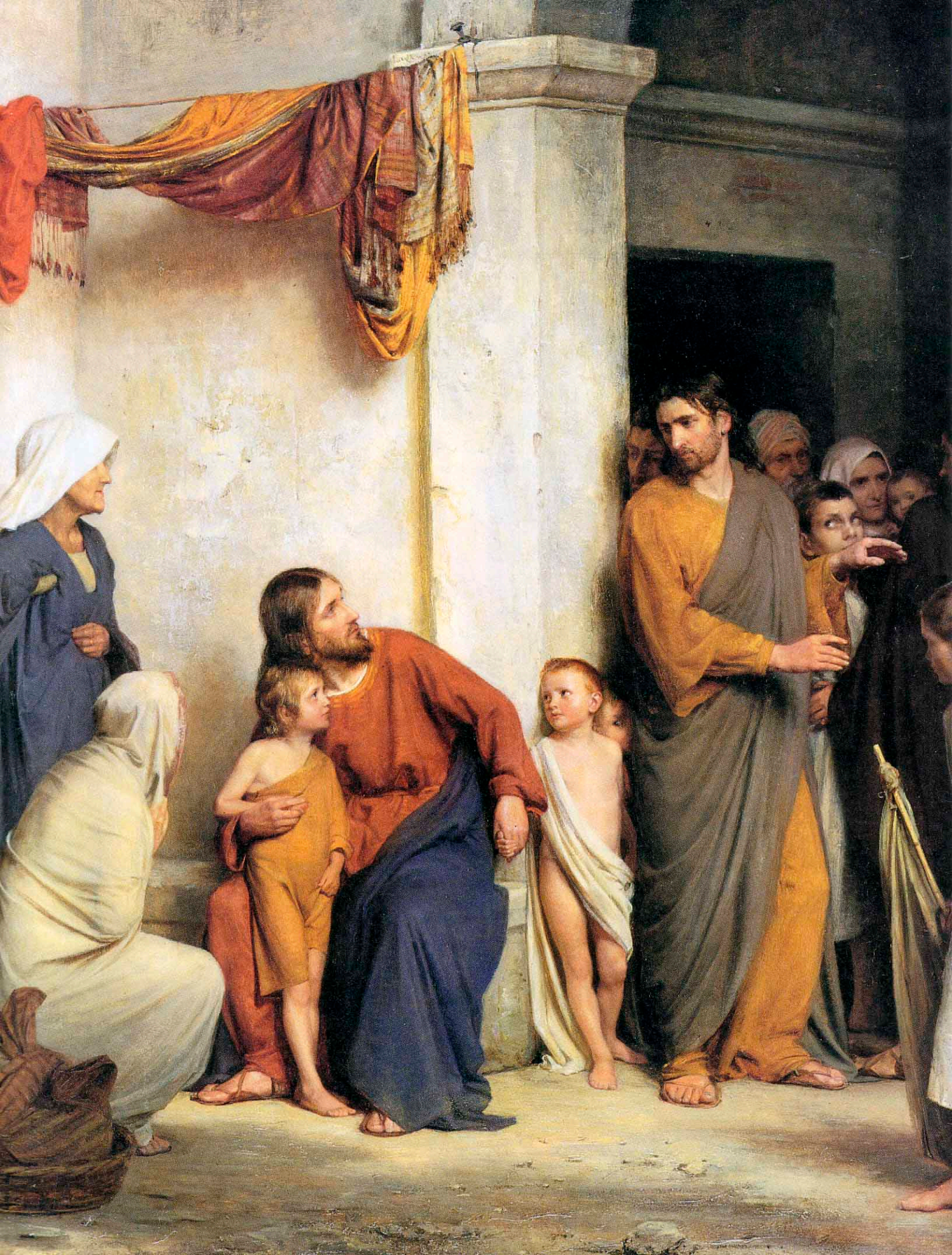


「〔主は〕大声で
『ラザロよ、
出てきなさい』
と呼ばわれた。
すると、死人は
手足を布でまかれ、
顔も顔おおいで
包まれたまま、
出てきた。」

(ヨハネ11：43—44)

「イエスが道をとおっておられるとき、
生れつきの盲人を見られた。
……イエスは
……どろを盲人の目に塗って言われた、
『シロアム……の池に行って洗いなさい。』
そこで彼は行って
……見えるようになって、帰って行った。」
(ヨハネ9：1, 6—7)





「そのとき、
……人々が
幼な子らを
みもとに連れてきた。
ところが、弟子たちは
彼らをたしなめた。
するとイエスは言われた、
『幼な子らをそのままに
しておきなさい。
わたしのところに
来るのを
とめてはならない。
天国はこのような
者の国である。』」
(マタイ19：13-14)



「イエスは彼らに言われた、
『わたしは苦しみを受ける前に、
あなたがたと
この過越の食事をしようと、
切に望んでいた。
あなたがたに言って置くが、
神の国で過越が成就する時までは、
わたしは二度と、
この過越の食事をすることはない。』」
(ルカ22：15-16)



「そののち、イエスは
今や万事が
終わったことを知って、
……『すべてが終わった』
と言われ、
首をたれて
息をひきとられた。」
(ヨハネ19：28，30)

「主は振りむいてペテロを見つめられた。

そのときペテロは、

『きょう、鶏が鳴く前に、

三度わたしを知らないと言うであろう』

と言われた

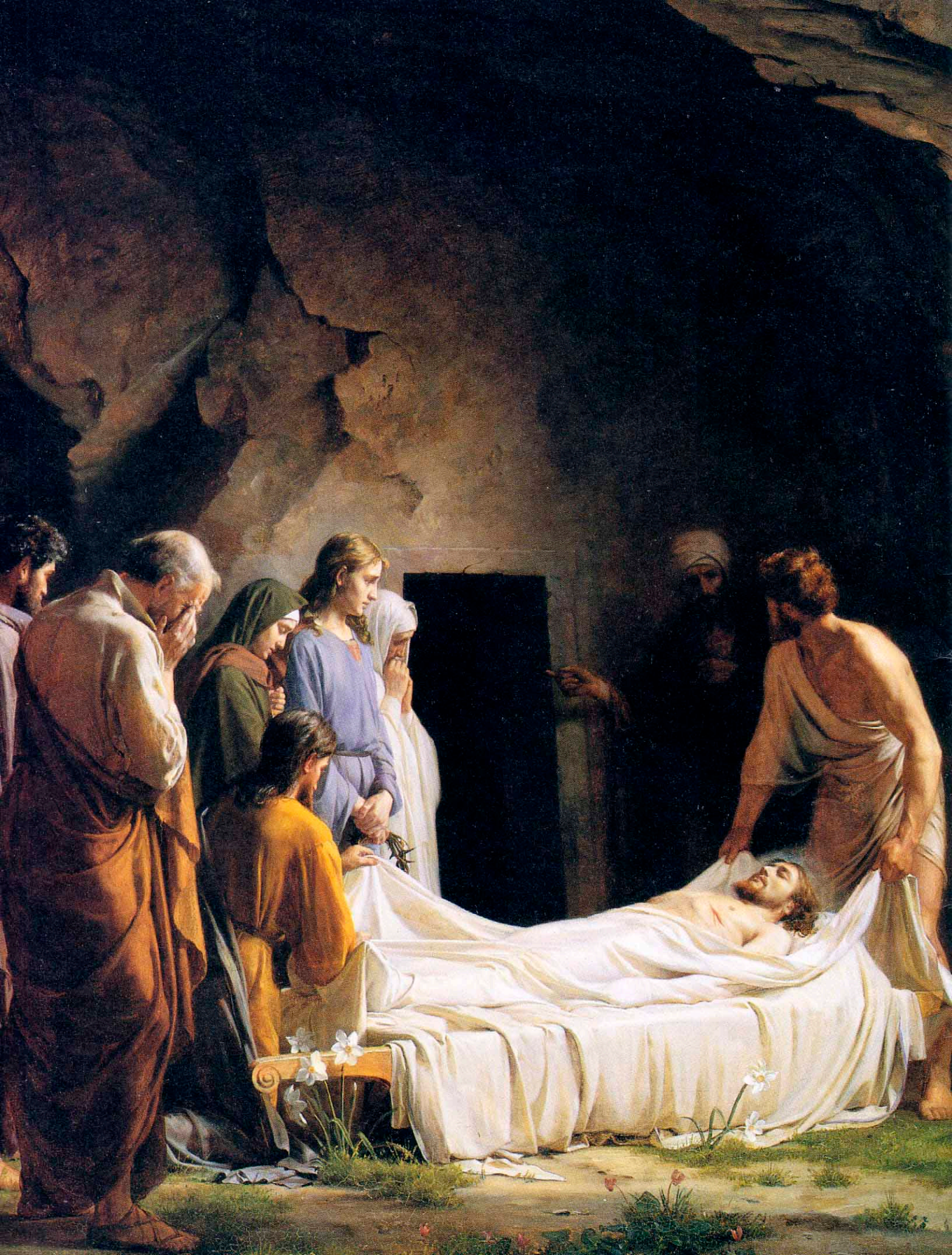
主のお言葉を思い出した。

そして外へ出て、激しく泣いた。」

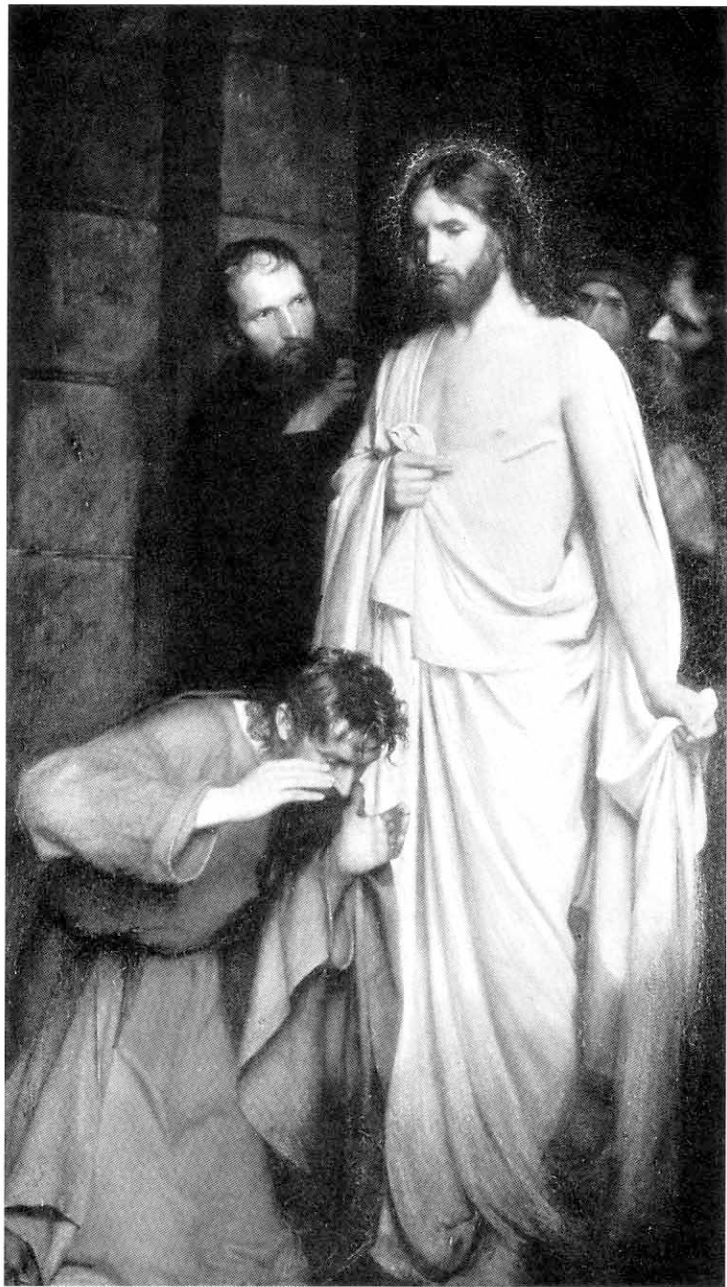
(ルカ22：61—62)



D[omi]ni filius
I[esu]s Na[za]reth
R[ex] Iu[da]eoru[m]



「彼らは、
イエスの死体を
取りおろし、
……亜麻布で巻いた。
イエスが十字架にかけられた所には、
一つの園があり、
そこにはまだだれも
葬られたことのない
新しい墓があった。
……〔彼らは〕
イエスをそこに納めた。」
(ヨハネ19：40—42)



THE DOUBTFUL THOMAS/SUPER STOCK

「それからトマスに言われた、
『……わたしの手を見なさい。
手をのばしてわたしのわきに
さし入れてみなさい。
信じない者にならないで、
信じる者になりなさい。』
トマスはイエスに答えて言った、
『わが主よ、わが神よ。』
(ヨハネ20：27—28)



父から受けた

神殿推薦状をもらうために初めて監督から面接を受けたときのことを、私はいつまでも忘れないでしょう。自分自身のエンダウメントを受けるために神殿参入の準備をしていた私を面接してくれた監督は、ほかでもない私の父でした。私と父は、毎日多くの時間を共に過ごしていました。ですからその気になれば、自宅でも、納屋でも、畑でも、車の中でも、手ごろな場所を見つけて面接しようとすればできたはずですが、父はこの機会を特別なものと考え、私の記憶に残るものにしたと思ったのです。

ある日、監督室から電話がかかってきました。神殿の面接をするための日時を設定したいという、父からの電話でした。私は不思議に思いました。父がわざわざ面接

神殿の面接

十二使徒定員会会員
L・トム・ペリー

の約束を取るなどということは、それまでに一度もなかったからです。私たちは、何時に監督室で会うかを決めました。約束の時間が来ました。監督室に入ると、父のデスクが、いつもと違ってきれいに整頓せいとんされていることに気づきました。普通、このデスクは、たくさんの書類や本がいつも山積みになっていました。しかしその日、デスクの上に置いてあったのは聖典だけでした。父は、型どおりに面接するだけでなく、その面接を通じて私が何かを学び取れるようにと、願っていたのです。

父は、私の前に聖典を置くと、次の聖句を読むように言いました。「汝なんじおの己ごれの如く汝の隣りを愛せよ。汝盗かんいんむなかれ。また、姦淫かんいんを犯すなかれ。また、人を殺すなかれ。また何事なんにてもこれに類することを為すことなかれ。」(教義と聖約59：6)最後の文に私は強い印象を受けました。

ILLUSTRATED BY SCOTT SNOW

それから、私たちは道徳的に清いということが、どうということなのか話し合いました。話し合いは清い思いを



持つということに集中しました。ほとんどの行動は、思いから出発するものだ、と父は話しました。もし、私たちが自らの思いを清く汚れのないものに保つことができれば、神殿推薦状を保持できなくなるような罪を犯すことはないでしょう。

次に、父は聖典を取って次の箇所を読みました。「およそこれらの言葉を憶えて守り且つ行い、この誠命に従って歩むすべての聖徒らは、そのへそに健康を受けその骨に髓を受けん。また智恵と知識の大いなる宝まことに秘れたる宝を見出さん。而して走れども疲れず、歩けども気を失うことなからん。主なるわれ彼らに一つの約束を与う。すなわち、さつりくの天使はイスラエルの小児たちが如く、彼らを過ぎ越して屠ることなかるべし。アーメン。」(教義と聖約89：18-21)

私たちは、主のこのような約束を心に留めながら、自分の肉体を、永遠の霊が宿る健全な住居として保ち続けることの価値について、話し合いました。人の霊は、現世にあって築くことのできる最も清い幕屋に宿るべきなのです。

次に、父は聖典を渡し、私に次の聖句を読ませました。「見よ、汝らの中に誌さる一つの記録あらん。その記録に於て、父なる神の御ところと汝らの主イエス・キリストの恩恵とにより汝は聖見者、翻訳者、予言者、イエス・キリストの使徒、教会の長老と称せられん。また汝は聖霊に感じて教会の基を築き、それを最も聖き信仰に築き建てん。その教会は、汝らの主の千八百三十年四月の六日に組織せられ且つ創立せられたり。この故に汝ら教会員は、彼が上より受くるままに汝らに与うる誠命と彼の言とを皆心にとめてよく聞き、わが前に全く聖き道を履むべきなり。」(教義と聖約21：1-4)

私たちは、予言者を尊敬し、支持する必要があることについて話し合いました。主の予言者が、私たちに誤った道へ導くことを、主は決してお許しになりません。これは私たちに与えられた約束です。ここに私たちの生活を築く確かな基礎があるのです。

次に父が別の聖句を読みました。「そもそも創世の以前より天に於て定められたる一つの変らざる律法ありて、

あらゆる祝福はこれに基くなり。すなわち、われら何にても神より祝福を受くる時は、この祝福の基く律法に従うによりて然るなり。」(教義と聖約130：20-21)

私たちは、主の律法に従順であることの大切さについて、また、私たちの信仰の試しとして主に差し出す、自分の一と捧げ物について話し合いました。

最後に、私たちはまた聖典を開き、読みました。

「われらの心より覆い取去られて覚りの眼開かれたり。われらは、われらに面して教壇の胸欄に立ちたもう主を見たり。而して、主の脚下にはこはくの如き色したる純金の床ありき。その眼は燃ゆる炎の如く、頭髮白きこと清き雪の如く、その顔は日の輝きにも勝りて光り輝き、その声は洪水の激する音の如し。誠にエホバの御声言いたもう。われは始めなり終りなり。われは生ける者なり殺されたる者なり。父と汝らの間の仲保者なり。」(教義と聖約110：1-4)

私たちは、私たちの主、救い主の贖いに対して抱いている永遠の望みについて話し合いました。また、主がお与えになった賜の中で最大のもの、すなわち永遠の生命、主と共に生活するという賜を授かるために、神殿の神聖な儀式を受けることがどれほど大切かということについても話し合いました。

父は、神殿推薦状の用紙に必要事項を書き込み、私に署名させ、暖かい握手をし、最後におめでとうと言って、私が有効な神殿推薦状を保持するにふさわしい人物であることを喜んでくれました。私は監督室を出るときに天にも昇る気持ちがありました。人生で最も大切な試験のひとつに合格したからです。私が、神殿推薦状を保持するにふさわしい、と思われたことがわかったからです。私は、そのとき、いつも最新の神殿推薦状を保持するにふさわしい生活をしようと心に決めました。

私は、マサチューセッツ州ボストンでステーク部長をしていたときほど、神殿推薦状の価値を思い知らされたことはないと思います。そのステーク部に、ひとりの未亡人が住んでいました。彼女はボストンでも比較的貧しい区域に住んでいました。自力で生活しようと一生懸命に努力しており、ほかの人の負担になりたくないという

独立心が旺盛でした。もっと住みやすい所に引っ越す経済的な余裕もなく、周囲の環境も悪化する中で、自分の家の中にもったきり、まるで囚人のような生活をしていました。思い切って買い物に出かけたときも、町で会う人は本当に不親切でした。あるときは、なぐり倒されてお金を奪われたこともありました。

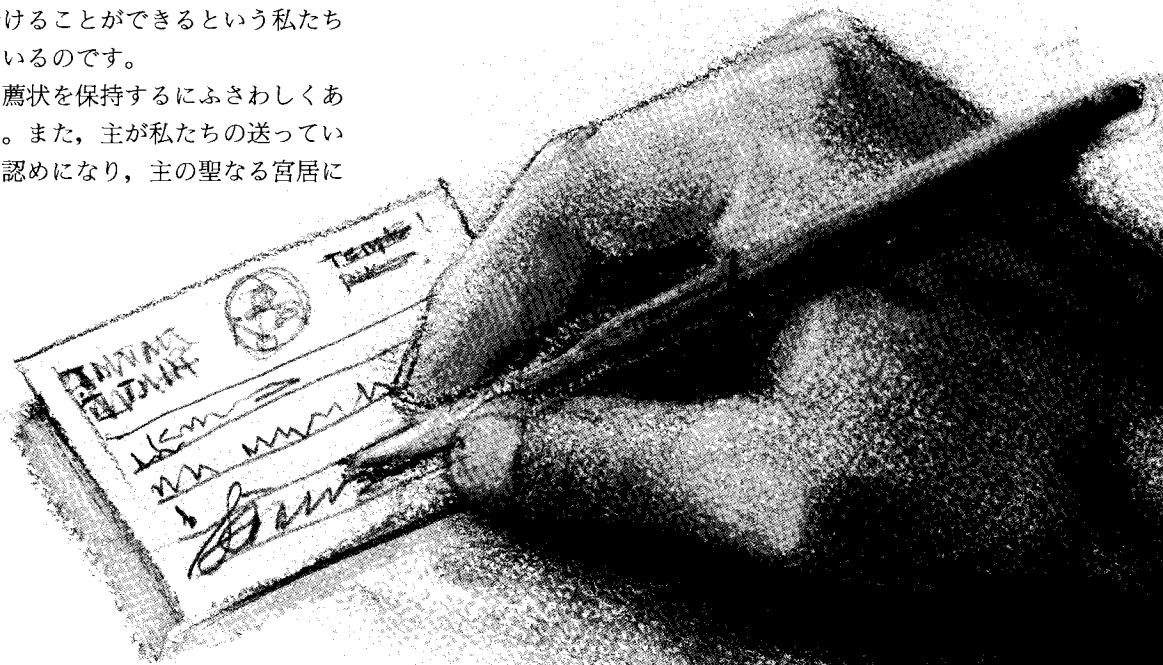
そういうわけで、生活必需品を購入するために外出するときは、神権者と一緒に行くようになりました。彼女は、私たちが家に到着すると、ひとつのことを条件に鍵をはずすという方法を取りました。アパートのドアをロックすると、いつも弱々しい声がドアの向こうから聞こえてきました。「どなたですか。」私たちが、自分の名前を答えると、彼女はよくこう言ったものです。「本人かどうか確認できるように、ドアの下から神殿推薦状を差し入れてください。」推薦状をドアの下からそっと差し入れると、彼女は掛け金を外し、私たちを中に入れてくれたのでした。

それはなんと象徴的な経験だったろうと、よく考えることがあります。小さな1枚の紙きれにすぎない神殿推薦状が、神殿の祝福を受けることができるという私たちのふさわしさを象徴しているのです。

私たちがいつも神殿推薦状を保持するにふさわしくあれるように願っています。また、主が私たちの送っている生活を正しいものとお認めになり、主の聖なる宮居に

参入するにふさわしい人物と見なされたという目に見える証拠を得るために、終始変わることなく定期的に神権指導者の前に座り、自らのふさわしさを明言できることを人生の目的のひとつにできるよう願っています。

主の教えを学んでください。自分が正しいと知っている原則を誠実に守って生活してください。原則を誠実に守ることによって、生涯ふさわしさを維持することができます。常にこの推薦状にふさわしい生活を送り、神殿参入の資格を確認する質問に偽りなく「はい」と答えることができるならば、私たちは主がお与えになった最大の賜に向かって進んでいることとなります。主の祝福により、神殿に参入するふさわしさを常に保とうと固く決意できるように願っています。これは主のみ業です。主は生きておられます。神は私たちの永遠の父であり、イエスは世の救い主であられます。このことを厳粛に証いたします。□





仲間の影響力

クリス・クロウ

「ちよつと君たち。」後ろから声が聞こえたたん、私とジョンの肩に重い手が置かれました。「それは君たちのじゃないんじゃないかね。」

私はあっけにと取られて何も言えませんでした。ジョンは違いました。肩を揺すって手を振り払い、突然声をかけてきた男の人と向き合っただけです。

「何だよ、ぼくたちは何もしてないぞ。あんたは一体だれだい。」

その男の人は怒りに顔を赤くしてこう言いました。「私はケナードとって、君たちが今出てきた店の主人だ。君たちがチョコレート盗むのを見たんだよ。」

盗んだって？ チョコレートを？ 私はジョンの方を見ました。彼はまばたきもせず、口論を続けました。

「どういふことだい。これは今買ってきたんだぞ。」

「いいかね、君、私は君がこのチョコレートをジャケットのポケットに入れるのを見たんだ。それから金を払わずに店を出て、ここにいる仲間のところへ来ただろう。ちゃんと見ていたんだ。」

そして彼は、私に向かって言いました。「君も同罪だ。君の仲間が店を出て来たとき、チョコレートを受け取っただろう。ちゃんと見ていたんだぞ。盗みはしなくても、仲間にやらせて盗んだ物をもったんだから同罪だ。」

その言葉はショックでした。「ちよつと待って下さい。ぼくは何もしてません。」

「相棒も同じことを言っただけだ。」

「いいえ、本当なんです。何もやっていません。盗むつもりだったなんて知らなかったんです。」お金は持っているから、店に入って何か食べる物を買ってくる間、外で待っているようにとジョンに言われたことを、ケナードさんに説明しました。

でもケナードさんは信じてくれませんでした。「いいかね。万引き少年たちと一日中遊んでいる暇はないんだよ。名前は？」

彼は名前を書き留め、私たちが店の中に連れ戻し、親に電話をかけました。私は腹立たしく思いました。無実の罪で万引きの疑いをかけられたこと、そしてジョンが盗みを働いたおかげで、こんなひどい迷惑をかけられたことに怒りを覚えたのです。

「ごめんよ。」ケナードさんの事務所に座っていると、ジョンが小さな声でつぶやきました。

「まったくだよ、一体どうしてくれるんだい。」

「本当にごめんよ、クリス。捕まるなんて思っていなかったんだ。今までだって捕まったことなんてなかったんだよ。」

「やめてくれよ。もうその話はよそう。」そして私たちは、迎えが来るまで黙って座っていました。

私は父の車に乗り、やっとふたりだけになると事の一部始終を話しました。

父は黙って最後まで聞いてから、エンジンをかけました。そして車を走らせながら、こう言いました。「お父さ

んはおまえを信じているよ。だがな、ケナードさんがおまえを信じなかったからといって、悪く思っちゃいけないよ。確かににおまえにも罪があるように見えただからな。これはつき合う仲間によって悪くなるという例だよ。どんな人と交際しているかによってその人自身が判断されるって、以前話したことがあるだろう？ おまえがきょう万引きと間違えられたのは、そういう仲間と一緒にいたからなんだよ。」

この万引き事件があつてから、私はずっと長いこと、つき合う仲間によって自分が判断されるという父の言葉が頭から離れませんでした。ジョンとつき合うことは、私にとって何の益にもなりませんでした。そして良い友達を持つことの大切さがよくわかりました。幸い、私にはまだほかにもたくさん良い友達がいました。私は良い友達とつき合うことによって向上したのです。

ウォルトとリズはとても良い友達でした。私が高校時代に最も良い影響を受けたふたりです。私はその時はまだ教会の会員ではありませんでしたが、まじめな運動選手でした。スポーツに熱中していたので、酒もたばこも有害な薬にも手を出しませんでした。高校2年になるまでは、友達もそのようなことには一切手を出しませんでした。ところが突然、一緒にバスケットボールをしていた仲間が、週末になるとパーティーで酒を飲むようになったのです。私も数回パーティーに行ってみました。そのような仲間と酒を飲むのは好きではなかったの、つき合うのをやめました。

ちょうどそのころ、モルモンの方達のウォルトと仲良くなったのです。ほかのみんながパーティーをしているときに、ウォルトと私は何か別のもっと良いことをするようにしました。ウォルトのおかげで、私も楽に正しい道を選べたのです。ウォルトが酒もたばこも口にしないことを知っていたので、無理にそうしなくてもよかったのです。

ウォルトは汚い言葉を使わず、私が悪い言葉を使うといつも正してくれました。彼はたいていは礼儀正しく丁寧で、一緒にいると、自分も少しは行儀よくした方がいような気がしました。私と同じように運動に熱心でし

たが、勉強の方もまじめでした。一生懸命勉強して、成績も良かったのです。(私の方はさほどでもありませんでしたが)私はウォルトと友達でいると、完全にはなれなくても、進歩する方法がわかるようになりました。

もちろん親しい友として、教会についても遠回しに私を誘いました。彼はよくこう言ったものです。「ねえクリス、君は酒も飲まないしたばこも吸わない、悪い薬にも手を出さないんだから、モルモンになったらいいんじゃない？ どっちにしても、もうほとんどモルモンみたいなものなんだしさ。」だんだん親しくなるにつれ、教会のことについてよく話すようになり、ほかの末日聖徒の青少年にも会うようになりました。

その中に、ウォルトのガールフレンドのリズがいました。リズは魅力的な元気のよいモルモンの女の子で、私もお構いなしによくからかったものです。彼女はかんぺきとも言える女性で、親しくなるにつれ、その良い影響が私を変え始めたのです。私は汚い言葉を使うのをやめました。そして何よりも、教会に興味を持つようになったのです。

カトリック教徒だった私にとって、宗教を変えることはたやすいことではありませんでした。でもウォルトやリズのような良い友達のおかげで、楽な気持ちで教会のことを学ぶことができました。真理を見つけ、正しいことをするようにリズは励ましてくれました。そして証が得られたとき、バプテスマの決心をするのに必要な力と勇気をリズとウォルトが与えてくれたのです。

同年代の仲間の悪い影響力について、いろいろ言われていることは、私もよく知っています。確かにそれはときとして、非常に悪い影響を及ぼすこともあります。しかし私が楽しくつき合ってきた友達のことを考えると、同年代の仲間は、とても良い影響を及ぼすこともあると言えます。私が曲がりなりにも進歩できたのは、友達のおかげなのです。□

*クリス・クロウ兄弟：ハワイ州ライエ北ステーク部幹部書記。ブリガム・ヤング大学ハワイ校の英語学助教授を務めている。

アロン神権の回復記念に寄せて

アジア地域会長会第二副会長
モンティ・J・ブラフ

数年前、ミネソタ州ミネアポリス伝道部の伝道部長を務めていたとき、50年ほど前に合衆国北部中央伝道部の伝道部長をしていたアーサー・ウェリング長老の手紙を受け取りました。半世紀前の時代をしのばせるような品物と一緒に、その手紙は封印されたタイムカプセルに収められ、50年後にミネアポリスステーキ部センターで開かれることになっていたのです。ウェリング伝道部長から受け取ったこの手紙は、私にとって最も大切な宝物となっています。1931年1月付けの手紙を読んでみましょう。

「新年おめでとうございます。1981年が幸福と繁栄に満ちたものとなりますように。きょう(ウェリング伝道部長の時代)はこれまでで最高の日であり、明日(私たちの時代)はきょうよりも良い日となることでしょう。そのころまでには、すでに完成されたラジオの力により、福音を『あらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる国語の民、あらゆる世の人々』に伝えることが比較的容易になるでしょう。今はまだ、ちらし配り、家庭集会、街頭伝道などを行ない、個人の証により頼み、比較的ゆっくりとした過程を踏んでいます。伝道を楽しみ、私たちの努力に対して主が与えてくださる祝福と恵みに感謝しています。

ちょうど今、ドイツのインシュタイン博士がカリフォルニア州パサディナにおいて、私たちのだれひとりとして理解することができない相対性理論の適用に関する実験を行なっています。また、ヒーバー・J・グラント大管長が教会の第7代大管長として13年目の任期を果たしています。確かに世界はますます急速に動いており、ラジオや



テレビ、病気の治療法などの面で今後50年以内に予想もできないことが起きるであろうと考えられています。皆さんが成功を収め、幸福な日を迎えられるように願っています。

アーサー・ウェリング伝道部長

私はその手紙を読んで深く感謝しました。確かに、技術の進歩のおかげで、主のみ業が一層進展するようになりました。しかし、私たちの伝道部で働いていた宣教師は、実質的には、1930年代と同じやり方で伝道していました。なぜでしょうか。もちろん、教会の偉大な教師のひとりがテレビというマスメディアを使って宣教師のレッスンを放映し、突如として多数の改宗者を生み出すということも考えられなくはありません。しかしそうなると、個々の宣教師はどうなるのでしょうか。これまで、そして現在世界中で働いている何千人もの宣教師たちが体験している大いなる成長と奉仕の過程についてはどうでしょうか。伝道を行なっているこれらの人々が、学習と進歩成長の重要な過程を踏めることにだれも異存はな

いでしょう。アロン神権者についてはどうでしょうか。アロン神権のみ業にはどんな成長の過程が含まれているのでしょうか。こうした過程を振り返ってみることは非常に価値があります。

私の母が5人の子供を育てたユタ州ランドルフにある古い家の裏庭に、とても大きくて見事な柳の木がありました。枝だけを見ても、普通の木の幹よりも大きいのです。これは木の家を作るには格好の場所だ。弟のマックスと私は、そう考えました。そこで私たちは、このすばらしい木の家を作る計画を立てました。きっと今までになく立派な家ができると、私たちは期待に胸をふくらませました。まず近所中から材料をかき集め、2本の枝が家を作るのにちょうどよい具合に伸びている箇所まで運び上げました。それはかなり大変な作業でしたが、早く完成させたいというやる気持ちを抑えることができませんでした。でき上がった家の姿を思い浮かべると、もりもりやる気がわいてくるのです。夏中働き、新学期が始まる少し前、ついに完成しました。自分たちの労働の成果を喜べる日がとうとうやって来たのです。そのとき感じた深い満足と喜びは決して忘れることができません。ところが、私たちは木の家の中に座り、しばらく周囲を見渡し、それから木を降りると、二度と再びそこに登ることはありませんでした。私たちはそのとき学んだ教訓を、人生のほかの領域でも度々繰り返して学びました。計画、材料集め、建築作業と私たちは一夏中その仕事に打ち込みました。完成した家は実際、見事なものでしたが、ほんの1日も私たちの関心をとどめることはなかったのです。つまり、いつまでも続く満足感と

喜びを与えてくれたのは完成されたものではなく、完成するまでの過程だったのです。

アロン神権は備えの神権と呼ばれています。バプテスマのヨハネは、アロン神権を1829年5月15日にジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリに授けました。それから約1年後の1830年4月に、アロン神権の義務を定義する啓示が与えられました。それは現在、教義と聖約20章の一部となっています。ここに少し引用しましょう。

「祭司の義務は説き、教え、^と積み、勧め、バプテスマを施し、^{せいさく}聖餐式を執り行うべきことなり。また各会員の家庭を訪れ、彼らが声を挙げてみひそかにても祈りをなし、またすべての家庭の務めにいそむように勧め、……教会員を守護し、彼らと共にありて彼らを強くすべきものとす。」また、「警告を与え、……キリストに来る様すべての人々を勧誘すべきなり。」(教義と聖約20:46-47, 53, 59)

アロン神権の若い男性は、たいてい、聖餐の神聖な儀式に携わっています。しかし、儀式を執行する責任は、彼らの義務のほんの一部でしかありません。「各会員の家庭を訪れ」る、「警告を与え、……キリストに来る様すべての人々を勧誘す」という義務についてはどうでしょうか。これは私にはホームティーチングの責任について言うように聞こえます。若いアロン神権者がホームティーチングで有意義な働きをすれば、メルキゼデク神権を受ける備えをするのに大いに役立ちます。私たちは若い男性が各自の義務を知り、召された職に伴う務めを果たすように指導しなくてはなりません。ところが現状は、若い男性はホームティーチングにあまり関与していません。レッスンの一部を教えたり、担当の家族に対する責任を果たすことはほとんどありません。また、「教会員を守護し、彼らと共にありて彼らを強くすべきものとす」という義務を受け入れている人はあまりいません。私たちの指導者の多くは、若い人々のための奉仕活動を探し回ってはいますが、ホームティーチングで有意義な働きができるような方向づけをしてはいません。ベンソン大

管長は最近行なわれた総大会で次のように述べています。

「メルキゼデク神権者の皆さん、アロン神権を持つ青少年が皆さんの同僚である場合は、彼らをよく訓練してください。担当家族と接触し、レッスンを行なう際に、青少年を効果的に活用してあげてください。ホームティーチングを尊ぶ気持ちをこうした若い人々に知らせてください。彼らが先輩同僚になったときには、皆さんと同じようにその召しを愛し、全力を尽くして働くようになるでしょう。」(『教会のホームティーチャーへ』「聖徒の道」1987年7月号, pp.55-56)

教会のステーキ部の多くで充実した伝道準備コースが開かれています。若い男性の多くは、ホームティーチングでの有意義な働きを通して得られる成長および学習過程を踏まずに伝道地へ赴いています。ホームティーチングは主の定められた伝道準備プログラムだと思います。もし今日、私が監督をしていたら、若い男性一人一人がホームティーチングの責任をよく果たしているかどうかに注意を向けることでしょう。とりわけ神権を持つ活発な父親が家にいない若い男性に、特別な注意を払うことでしょう。若いアロン神権者は全員、毎月1度は強いメルキゼデク神権者と共に夕べを過ごす特権に浴す必要があります。ベンソン大管長は定期的に奉仕の機会を持つように勧められています。

「天父の子供たちが教会から受ける援助の中で、謙遜で献身的な決意に満ちたホームティーチャーの奉仕ほど大きな助けはほかにありません。」(『教会のホームティーチャーへ』「聖徒の道」1987年7月号, p.54)

伝道活動についてウェリング伝道部長が頭に描いたように、通信技術の発達により各家庭にメッセージを伝えることが実際に可能になりました。しかし、確かにそれは実行可能かもしれませんが、それでは役に立たないのです。ホームティーチャーとしての務めを果たす人々に授けられる成長や進歩は、単にメッセージを伝えることよりもずっと大切なのです。訪問前後の準備や奉仕の過程でもたらされる恵みを無視

すれば、アロン神権のみ業の大いなる目的を狭めてしまうことになります。アロン神権のみ業の中で有意義な働きもせずメルキゼデク神権を受けることは、前述の木の家をだれかほかの人に作らせることと同じようなものです。

ボーイスカウトは次のような言葉で始まる「ちかい」を立てます。「私は、名誉にかけて、……神(仏)と国とに誠を尽し……ます。」また、私たちは多くの国の若い男性が暗唱するボーイスカウト連盟の「スカウトのおきて」を愛しています。それはボーイスカウトが成長過程で身に付けるべき人格上の特質について述べたものです。「スカウトは……」で始まるその条文には、すべての若い男性の福利にとって重要な12の特質があげられています。私たちの大部分はこれらふたつの重要な「ちかい」と「おきて」を今でもよく覚えています。

教義と聖約の第20章には、アロン神権者の義務が少なくとも16述べられています。これを読むと、若い男性の神に対する義務がどのようなものかわかるでしょう。私たちは「スカウトのおきて」に親しみ、それをよく覚えていますが、アロン神権のこれら16の義務についてはそれほどでもないように思われます。そこで私は以下のような、「アロン神権の義務に関する誓い」とも言える要約文を作って暗唱しましたが、それはアロン神権の義務を学ぶことに役立ちました。

「私の義務は、説き、教え、積み、勧め、バプテスマを施し、聖餐を配り、準備し、祝福することです。また各会員の家庭を訪れ、彼らに祈り、家庭の務めにいそむように勧めます。私の義務は教会員を守護し、彼らと共にありて彼らを強くすることです。また教会員の中に邪悪な行為、虚言、^{かげぐち}陰口、^{あくごう}悪口、頑固になることがないようにすることです。また教会員がしばしば集会し、その義務を尽くすように計らいます。そしてキリストに来るようすべての人々に勧めます。」

アロン神権は単に授かり、維持していればよいというものではなく、行ないを伴う必要があります。若いモテへあてたパウロの次のような言葉は、

現代の若い男性にも当てはまるように思われます。

「こういうわけで、あなたに注意したい。わたしの^{あんしめ}按手によって内にいただいた神の賜物を、再び燃えたたせなさい。……神はわたしたちを……聖な

る招きをもって召して下さったのであるが、それは、わたしたちのわざによるのではなく、神ご自身の計画に基き、また、永遠の昔にキリスト・イエスにあつてわたしたちに賜わっていた恵み……によるのである。」(IIテモテ1：

6, 9-10)

アロン神権の神聖な召しについて、イエス・キリストのみ名により証します。アーメン。(1990年5月6日に行なわれたアロン神権回復記念行事における説教)

子供を育てるという 神聖な使命

母親になり、子供を育てることは、ともにきわめて敬虔な、神ご自身に最も近い務めです。人間の務めの中で子供を育てることほど、人に、神ご自身が持つておられる数多くの特質を求めるものではありません。母親、あるいは教師、保護者として子供の養育に携わり、その天与の使命を果たそうと努めている女性は、男性も女性も同じようにすべての人が身に付けなければならない神の真の属性について、思い巡らします。次のような態度や属性について考えてみてください。

■神ご自身が崇高な目的のために犠牲を払われた。母親になるということは、真心から完全に自らを捧げることを意味する。

■神は最も深い慈悲の心を持つお方である。母親はあふれるように豊かな愛情を注ぎ、理解を示す。

■神は最も寛大なお方である。母親も同様にやさしさを身に付け、子供が何度失敗しても心から赦す。

■神はあらゆる善の模範である。母親も徳の象徴である。

■神はどこまでも清い。母親はあらゆる純潔なものの典型である。

(『社説』「チャーチニュース」1961年5月13日付, p.16)

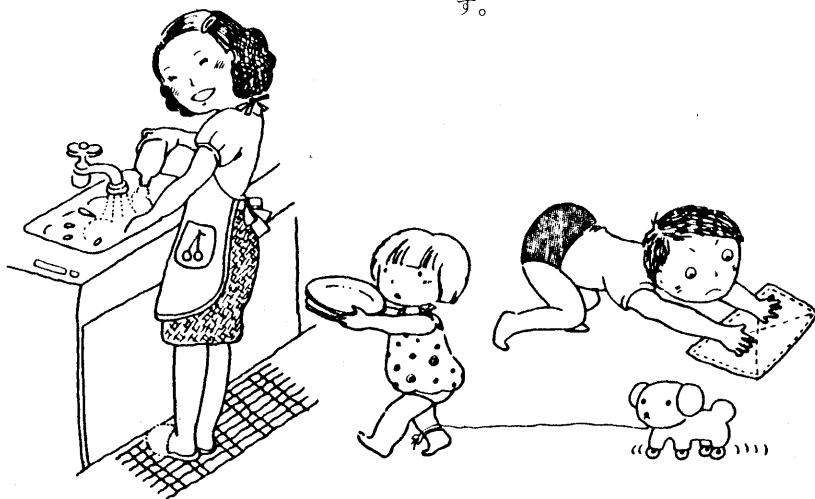
幼児の将来は母親の手によってどのようにも左右されます。女性は子供を

育てながらその天与の務めを果たし、創造の目的を満たす完全な生活へと子供たちを導いていくことができます。女性は忍耐と愛情と親切により、死すべき肉体を持つ子供たちに、日の光栄の特質を植え付けてやることができます。この幼い人間の心に、愛や自尊心、慈悲や清さを少しずつ身に付けさせていくのは母親なのです。堅固で愛情豊かでそして敬虔な環境の下で育った青年たちは、人生の荒波に立ち向かう備えが十分にできています。そうした環境を用意したのは、神のような特質を身につけた母親たちの奇しき働きでした。

母の日を迎えるこの時期に私たちが祝うものは、母親となり子供を育てる

ことに秘められたこの可能性です。私たちは母親の皆さんを称賛し、感謝したいと思います。また、母親の皆さんに対して抱いている私たちの愛を、お伝えしたいと思います。確かに母親の務めは容易なものではありません。しかしこれは神から命じられた務めであり、そのゆえに母親はこの務めにかかわる神の導きと靈感を受ける権利を得ているのです。

世の中には母親となる機会に恵まなかったにもかかわらず子供たちの世話をする女性が数多くいます。このような人々にも、まったく同様の感謝を捧げる必要があります。彼女たちは、初等協会で、日曜学校で、若い女性の組織で、セミナーで、あるいは家庭や教会を離れた様々な団体の中で子供たちを教えています。彼女たちは大地に根を下ろした人物、堅固な教会、また揺るがぬ社会をつくることを目指して、人の心に触れ、鍛え、導く務めを果たしているのです。こうした女性たちが自分たちの務めも、神から授けられた使命を持っていることに変わりはないと、自覚できるように願っています。



あなたの好きな歌

パット・グレアム

か 詞と一緒に曲を覚えておく
歌 と、いつまでも忘れない
 て、知っていましたか。それは曲
 を思い出すと歌詞も一緒に思い出
 し、反対に、歌詞を思い出すと曲
 もそれと一緒に浮かんでくるから
 です。でも一番覚えておかなけれ
 ばならないのは、その歌の意味で
 すね。

みなさんの大好きな歌の歌詞や

曲や意味を思い出しながら、楽し
くゲームをすることができます。
ふたり、またはふたつのチームで
行なってください。

遊び方

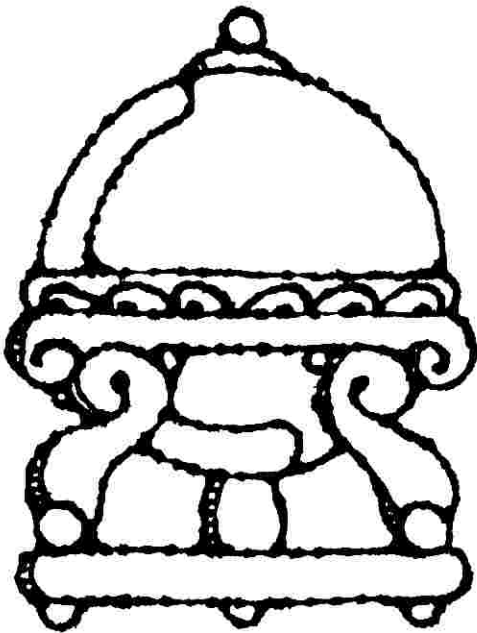
1. こまをふたつ用意して、地
図のスタートのところにおきます。
2. リアホナの絵を8枚コピー
して、うらに歌の題名と、その歌

についての質問を書いておきます。

3. このリアホナをぜんぶ箱の
中に入れるか、リアホナのうらに
棒をはり付け、小箱のふたに短い
切り込みを入れてそこにリアホナ
を立てます。

4. ゲームを行なう人をふたり
選びます。ひとりがリアホナをど
れか取り、だれかにそこに書かれ
ている歌の題名と質問を読んでも

あなたの名を
ほめ歌います。
(詩篇 9 : 2)



らいます。ふたりのうちどちらかが答えがわかったら、手をあげるか、すずをふってもらいます。(心の中でその歌を歌ってみると答えがわかるでしょう)答えがあっていたら、その人(またはそのチーム)のこまをひとつ進めます。

5. その歌を歌って答えを確かめましょう。リアホナはまたもとの箱に戻します。

6. こうしてどちらかの人が(またはチーム)があがりになるまで続けます。

7. 自分の好きな賛美歌や歌の質問を考えて、ほかにも書き出してみましょう。

歌の題名と質問

1. 「モルモン経の物語は」(「子供の歌」B-87)レーマン人はどんなときにさかえたでしょうか。

2. 「われらは天の王に」(賛美歌157番)私たちは天の王に召されたどのような人でしょうか。

3. 「きんばん」(「子供の歌」B-57)ニーファイが書き残した記録の話は何にのっていますか。

4. 「よくききましょう」(「子供の歌」B-3)耳をかたむけると聖霊は何を与えてくれるでしょう。

5. 「エスさま子どもを愛し」(「子供の歌」B-51)イエスさまは子供たちを愛して何をされたか。

6. 「ニーファイのように」(「わたしはいますぐせんきょうになれる」『聖餐会での子供の発表』1986年版, p.12)私たちは何をするために末日まで天に取っておかれたのですか。

7. 「モルモン経」(「子供の歌—増補」p.32)モルモン経にはいくつの書がありますか。

8. 「神の子です」(賛美歌189番)また天父といっしょに住むには何をしなければなりませんか。

答え

1. 正しいとき, 2. あかし人, 3. モルモン経, 4. みちびき, 5. 助けて, ひぎにだかれた, 6. 王国を建てたため, 7. 15, 8. みこころを行なう



(「フレンド」1988年10月号, pp. 46-47)

レニングラードの日曜日



レニングラード支部のあるネフスキープロスペクトから2ブロック先の、ノフガルドスカヤ9番地に立つ宣教師。

「これが末日聖徒の集う所ですか。」ロシアの青年たちが尋ねました。

それは、9月23日の日曜日でした。アイオワ州出身のレーガン長老とアリゾナ州出身のドーバー長老は、4月以来レニングラード支部の集会が開かれているレニングラードの繁華街にある古い3階建ての建物の入り口に立っていました。もともとふたりはフィンランド・ヘルシンキ伝道部に召され、昨年の7月、フィンランド・ヘルシンキ東伝道部に最初の宣教師として召されました。レーガン長老とドーバー長老は、ふたりの学生と話し始め、15分後に始まる集会に出席するよう招待しました。このふたりは、友人から教会について聞いて来たのです。

特別な時間と場所

ひとたび礼拝堂として使用されている小さな劇場の中に入ると、教会員も訪問者も、末日聖徒の集う所ではどこ

でも感じられる、活気にあふれた温かい雰囲気に取り込まれます。力強い握手、肩に回された腕、抱擁、そして愛の言葉で薄暗いホールはまるで光が差したように明るくなるのです。

「何か特別なものを感じました。それはほかのどこでも感じることでできなかった温かさと親しみやすさです。教会は私の望みを具体的に示し、自分自身に対する期待を高めてくれました」と、夫婦で6月にバプテスマを受けたある兄弟は教会の魅力を語ります。

初期の改宗者のひとりである支部長のユリ・テレベネン兄弟も同様の気持ちを表わしました。彼と妻と10代の娘は、1年前ハンガリーの友人を訪問中教会に加わったのです。テレベネン家族はバプテスマを受けてレニングラードへ戻った後、ヘルシンキの友人に頼んで、当時のフィンランドの伝道部長と連絡をとってもらいました。伝道部長と副伝道部長はすでにソビエト連邦西部国境付近に位置するボルグとタリ

ンの会員たちを訪問していました。彼らはテレベネン家族をはじめとするレニングラードの会員たちも訪問しました。そして、1989年の12月までにこれらの3つの都市に教会の小さな支部が設立されたのです。

レニングラード支部は現在会員数が100人以上に達しており、この日曜日はさらに、40人以上の訪問者が出席しました。その日は、フィンランド・ヘルシンキ東伝道部のゲイリー・ブラウニング伝道部長が家族で出席し、特別な発表をすることになっていました。

「ほんの1週間ほど前」、伝道部長は満面に微笑を浮かべながら話し始めました。「9月19日ソビエト宗教問題評議会は、教会のレニングラード支部が正式に登録されたことをリンガー長老に連絡しました。」この言葉に人々の抑えきれない喜びの声がもれ、聖餐会の静けさが一瞬破られました。

聖餐会を開会するに当たり、ユリ・テレベネン支部長が壇上に立ち、穏や

かに歓迎の意を表わしました。彼の頭上の壁には第27代ソビエト最高会議の目標——ペレストロイカを達成するため、人々に全力を尽くすよう呼びかけた旗が掲げてありました。もちろん、この集会が行なわれていること、そしてブラウニング伝道部長が教会の登録を発表したことは、とりわけペレストロイカ進展の証と言えるでしょう。安息日の礼拝を許可され新しい自由を獲得した人々は、教会に再び足を運ぶようになりました。

陰の力

何世紀にもわたり、キリスト教はロシアの地で繁栄しました。しかし、この60年間、光輝く黄金のせん塔、聖画、美術品を持つ美しい教会は礼拝のために使用されることがなくなり、その多くは博物館、スケート場、もしくは倉庫に改造されてしまいました。

末日聖徒は長い年月の間、回復された福音が全世界の国々に伝えられるよう祈ってきました。ペレストロイカがあたかも宗教復興をもたらしたかのようにも思えますが、人間の業の陰では主のみ手が働いていました。

1903年8月6日、十二使徒定員会会員フランシス・M・ライマン長老は、

ペテルスブルグ大聖堂の庭園でひざまずき、福音を宣べるためにロシアを奉獻しました。1989年の4月、再び十二使徒定員会会員ラッセル・M・ネルソン長老は、同じ美しい庭園でひざまずき、ソビエト連邦に主の祝福があるように祈りました。そのとき以来、ネルソン長老と七十人定員会会員ハンス・B・リンガー長老はロシア共和党の官僚と交渉を続け、教会が正式に登録されるよう努力を重ねてきました。

聖餐会の後、数人の学生がパフェル・アガフォノフ兄弟から教会について聞きたいきさつについて語ってくれました。工学および心理学専攻の学生パフェルは、昨年3月、合衆国ジョージア州アトランタ滞在中に教会を知りました。彼は4月にバプテスマを受け、続々と友達を教会に連れてくるようになりました。それから彼のふたりのルームメイトも教会に加わりました。この青年たちは、この教会のように情情的にも霊的にも親近感を見いだせる所はほかにないということに同意したのです。

外国とのつながり

今日までのソビエト連邦における教会の発展は、おもに教会員が福音を友

人に宣べ伝えることから生じています。ハンガリーで教会について学んだテレベネン支部長のように、初期にバプテスマを受けた人の多くは外国とのつながりがありました。そのようなつながりのあった人の中には、フィンランド東部のヤッコ夫妻、ネリーとエイモがいます。ネリーは国際卓球チャンピオンでロシアの友人を通してロシア国内の大会に出場しました。卓球を通して、ふたりのロシア人医師、アンドレ・セミノフとその兄弟パフェルと宗教の話をするようになりました。その後ふたりは家族と共に活発な教会員となりました。アンドレはボルグで支部長を務め、パフェルはレニングラードで支部書記を務めています。

アンドレとパフェルの家族はほかのソビエト人と同様、幼い時から神はいないと教えられてきました。「福音」という言葉の意味する「良きおとずれ」をみずから発見した喜びは計り知れませんが、神はただ生きておられるだけでなく、アンドレが語るように「予言者を通して私たちに語られるほど、私たちを愛してくださっているのです。」（「エンサイン」1990年12月号、pp.67-69）

伝道への動機付け

「この集会は皆さんを伝道に出すために仕組まれたものだと、考えていらっしゃるかもしれませんが、必ずしもそうではありません。」

ユタ州ハンターおよびマグナ地区の地区代表、ジェームズ・H・ピングリー長老は、1990年10月、伝道に出ることを考えている若い男性とその神権指導者たちを前に、こう語り始めました。

この数カ月前、ピングリー長老は、ある指導者会の中で、伝道に出るべき

かどうか迷っている青少年を、最低ひとり連れて来るように呼びかけました。

集会はいつもと違い、最近伝道を終えた5人の帰還宣教師をパネラーとして招き、彼らがどうして伝道に出る決心をしたかについて話してもらいました。パネラーのうちの4人は、ピングリー長老がステーク部長時代に、その指導を受けた人々でした。

パネラーは全員、伝道に出たときは19歳を過ぎていて、ピングリー長老に

よれば、彼らを伝道に出たいという気持ちにさせるには、多くの努力が必要だったといえます。しかし、彼らはそれぞれ立派に伝道の責任を果たし、それは自分たちの人生にとって有益で、必要なものであったと断言しました。

たとえば、帰還して1カ月ほどしかたっていないトッド・バトラー兄弟は、19歳のときには大学の勉強やいろいろな交際で忙しく、ガールフレンドもいたので伝道に出たいとは思わな

かった、と語りました。

「自分の生活を捨てたくありませんでした。私の気持ちを変えたのは、祈りを通して得た経験と祝福師の祝福、そして、『祈ります』と私が言うまで励まし続けてくれたステーキ部長のおかげです。」彼はそう語りました。

祈りこそが伝道に出る決心をするための要である^{かゝる}と、ピングリー長老は指摘します。

「心からの熱意を持たずに、伝道に出てほしくありません。祈り、そしてどのような答えが与えられても、それを受け入れる気持ちがあれば、天父は伝道について答えをくださることでしよう。今の自分には伝道への気持ちがないと心配している人は、その点に関して平安な気持ちを持てるよう主に求め、伝道に出ることが主のみこころかどうかを尋ねてみてください。もしそれがあなたにとって正しいことならば、伝道に対する思いが次第に強くなっていくことでしよう。」

1年半前にグアテマラから帰還したトッド・ウッズ兄弟は、ステーキ部長だったピングリー長老、監督、そのほかの指導者とたびたび会い、ついに伝道に出る決意をしたと語りました。

「ピングリーステーキ部長は、もし伝道について祈るなら、たとえ何カ月かかっても必ず答えが得られると約束したんです。」

実際には数カ月も必要ありませんでした。

「1週間後、両親と話をしているときでした。そんなつもりはまったくなかったのに、突然こうってしまったのです。『ぼく、伝道に出るよ。』私が自分の言葉の意味に気づく前に、両親は顔を輝かせ涙さえ浮かべていました。鏡に写った自分を姿を見て『伝道に行くんだなあ』と心の中で思いました。両親だけではなく、私自身も驚いていたのです。」

21歳になってからフィリピンに伝道に出たデビッド・クレメンツ兄弟は次のように語りました。

「今の私は2年前とは違います。今の私から長髪で耳にはピアスをし、やかましい音楽を始終聞いているような人が想像できるでしょうか。」

彼は、自分のいくつかの習慣が原因となって、伝道に出る決心がつきませんでした。彼はこう述べました。

「しかし、それまでの自分を精算し、人生の軌道修正ができたのは、霊的な事柄について心から話せる友人が教会にいたからです。」

その友人とはピングリーステーキ部長のことでした。

「一度、ステーキ部長室で一緒にひざまずいて祈るようにピングリーステーキ部長に言われたことを覚えていますが、あまり気が進まなかったのですが、それでも祈りました。そのときとても大きな平安を覚えました。それが私の転機となりました。」

日本福岡伝道部から帰還したばかりのパーカー・デービス兄弟は、19歳のとき伝道に出なかったのは、伝道がどのようなものか、わからなかったからだと言いました。

「指導者と一緒に責任を果たしたり、同年代の教会員たちと交際したりしているうちに、当時は伝道に出る意志がなかったにもかかわらず、皆が私を愛し、天父も愛してくださっていることに気づいたのです。私は、祈りを通して得た霊的な証など、いくつかの特別な経験を通して決心しました。自分が進みたいと願っている人生の方向は、

伝道であると感じたのです。」彼はそう回想します。

主が自分を必要としておられるように、自分も伝道の経験を必要としていた、とデービス兄弟は述べました。

ピングリー長老は、地区内の活発な若い男性のうち伝道に出るのが約半数という状況を見て、この集会を開くことを考えたと言います。

伝道に対する若人の気持ち、特に19歳を過ぎた彼らの気持ちが、自分の経験からわかるのです、とピングリー長老は語ります。彼自身が伝道に出るべきだと感じたのは、すでに外科医として働いていた27歳のときでした。そして帰還後、同じ時期にスコットランドで伝道していた若い女性と交際し、結婚しました。

2時間にわたるこの集会には予想を上回る300人以上の人が出席し、パネラーたちは、伝道の費用、ガールフレンドの問題、伝道期間などの様々な質問を受け、それに答えました。

この集会がふたつの地区に与えた影響を統計的な数値で示すのは時期尚早であるとピングリー長老は語ります。しかし、集会に出席したステーキ部長たちは、それがきわめて良い結果をもたらすことは間違いないと、話していました。



伝道中の宣教師(日本宣教師訓練センターにて)



北陸地方部小松支部

主に召されて

支部長
竹内章浩

「主のみ名と聖なるメルキゼデク神権の権能により、この新しい小松地域の教会堂の祝福と奉獻をいたします。」

みたまにあふれた静寂の中に、ミス伝道部長の力強い奉獻の祈りが捧げられた瞬間、長年待ちわびていた礼拝堂がようやく完成した喜びを実感するとともに、主のみ業がこの地にも着実に進められていることを確信しました。

昨年7月8日に行なわれたこの献堂式の余韻がさめやらぬ2週間後の7月22日、福元地方部長より、完成したばかりの神様の教会堂とこの地に住む200人余りの教会員を管理するという大きな召しを受けるように要請をいただいたとき、これまでの信仰生活の中で、数歩進んだかと思えばまた後戻りしているような自分の姿が浮かびました。多くの弱点を今なお持ち続けているような自分が本当に神様から必要とされているのだろうか。そんなためらいを感じながらも、僕として少しでもみ業のお手伝いをさせていただけるも

のならと思い、謹んで神聖な責任をお受けしました。

初めて宣教師に出会った時の感動から始まり、教会の責任を通して知り合った最も愛し尊敬できる姉妹との結婚と、天父のみもとから私たち夫婦に授けられた4人の子供たちの成長、そして改宗時から息子を信じていつも陰で助けてくれた両親の愛、これら一つ一つの恵みと祝福が今の自分を支えているものと確信し、神様からのこれらの多くの賜に心から感謝しています。

アルマは「私の兄弟諸君よ、あなたたちにもしも心を改めたことと、^{あがな}贖いを与える愛を讃美する歌を唱えたいと思ったことがあるならば、今もそう思えるか私はたずねたい」（アルマ5：26）と私たちに神に会う用意ができていのかどうかをいつも省みるように促しています。私は幸いにも教会から離れたことはありませんが、このアルマの言葉は、日々自分の言動を省みるうえでよく思い起こす聖句で、その都度、宣教師との出会いの時のことが昨日のように思い出されます。

当時大学受験に失敗し浪人生活を送っていたにもかかわらず、春先から、その年は自分にとって何かとても大切なことが起こりそうな気がしてなりません。そして夏も終わりに近づ

いた8月28日の午後のことでした。毎日通っていた図書館からの帰り、その日は特別に母からことづかった用事があり、初めて通る道を歩いていました。前から来たきちんとした身なりのふたりのアメリカ人の青年から、すれ違い際に声をかけられたとき、「春先からの予感ももしかしてこの出会いから始まるのでは」と直感し、自分でも不思議なほど素直に宣教師の勧めに応じることができました。

当時大阪で開催されていた万国博覧会で上映されていた映画から始まり、それまで肉親としか感じられなかった純粋な愛を会うたびに言葉や行ないで示してくれた宣教師の教えに、いつしか自分もこうなりたいと思い神様を信じていることができるようになりました。

「信仰と言うことは、完全に物事を知ることではない。……私の言葉の確かなこともあなたたちは始めから完全には知ることができない。」（アルマ32：26）今もほんの一部のわずかな知識しかない小さな自分ですが、偉大な主のくすしきみ業に一生懸命励みたいと思っています。神様が生きておられ、聖なる神権の力により主のみ業が完成することを心から証いたします。（たけうち・あきひろ）

答えられた祈り

竹内倫子

初 めて私が神様に助けを求めたのは中学1年の秋でした。夕方おなか痛いと言って田んぼから帰って来た母のただならぬ様子に死を予感し、夢中で雨の中を素足のまま父を呼びに行きました。私は恐ろしくて家に入ることができず、そのままただひたすら神様に助けを求めました。住職の娘として生まれ、小さいころからお経を聞いて育った私が、仏様ではなく神様に祈ったのです。「神様、どうかお願いです。母を連れて行かないください。良い子になります。わがママはもう言いません。けんかもしません。何でも言うことを聞きます。助けてください。」

真っ暗な中でどれくらいそうしていたのでしょうか。残念ながら母は4時間苦しめぬいて息を引き取りました。私の祈りこそ聞いてはもらえませんでした。が、「頼るお方がいる」ということはその時はっきりと知ることができました。ですから、それから6年後に宣教師の訪れを受けた時、素直に彼らの話をすべて信じることができました。何よりもうれしかったのは、救いの計画を教えられた時です。

私は母が死ぬ前の晩にささいなことでも口げんかをしました。翌朝まだ腹を立てていた私は、母の「倫子ももう子供じゃないやね」という話しかけにそっぽを向き、「いつてらっしゃい」の声に返事もせずに出掛けてしまい、学校にいる間中ずっと後悔していました。



竹内支部長ご夫妻

帰ったら謝ろうと思っていたのに、「ごめんなさい」の一言も言えないまま二度と会えなくなってしまったのです。けんかしたまま別れてしまったということは私にとってとてもつらく、心の中に重くのしかかっていた。ですから宣教師から救いの計画を聞き、もう一度愛する人たちと会うことができると知った時、長い間の心のつかえがとれたのです。私は天父に心から感謝しました。バプテスマを受け良い娘になるなら、今度は永遠に愛する母と住むことができるのです。あの時言えなかった「ごめんなさい」を伝えることができるのです。その時すぐにバプテスマの決心をしました。

それから20年、38歳で死んだ母の年をひとつ追いつきました。母と同じく、男ふたり女ふたりの4人の子供に恵まれ、やさしい義母と、尊敬する神権者の主人と、とても幸福な生活を送って

います。この20年間本当にたくさんのことを学びました。また家庭の夕べや家族の祈りを通して、家庭の中に愛と一致をはぐくむことができました。この教会に入っていなかったら、今の幸福はなかったでしょう。

現在私は若い女性の会長の責任をいただけていますが、私の学んできたことや得た証など、持っているものすべてを若い女性たちに伝えたいと思っています。また子供たちに主のみ前に正しく歩むことを教え、いつの日か福音を携えて、私の得た喜びを多くの人に味わってもらえるよう、良い宣教師として送り出せるように備えたいと思っています。この教会は真実の正しいイエス・キリストの教会であると心から証します。(たけうち・みちこ 支部若い女性会長)

教会堂をいただいて

北野智之

神様は不思議なお方です。実際に生きたもうて日々私たちのなすことをつぶさに見ておいでになっていることを心から証したいと思います。昨年、これまでの片屋根の建物が増築

され、立派な教会堂が完成、献堂されました。会員皆で長い間心配し、待ち望んでいただけに、本当に感激しました。

顧みれば私が出会ったころの宣教師のいでたちは実に格好の良いものでした。中折れ帽をかぶり、私など到底乗ることのできない高さの自転車に乗り、さっそうと走る姿は実にさうそうたるものでした。また今昔を問わず、その

落ち着いた物腰、やさしさ、人に与える愛はすばらしい一言に尽きます。そして熱心に勤める神の真理。たどたどしい日本語で宣べられると、なおのこと一生懸命に聞くものです。

小松に伝道所が開設されて約40年の月日が過ぎました。でもその間に様々なことがありました。

昭和32年9月、事情により小松支部は閉鎖されました。そして私たちは約

30キロ離れた金沢支部への出席を余儀なくされました。私は神権会がありますのでひとりで先にバスで金沢に行き、妻が当時幼かったふたりの子供を連れ、1時間以上かけてバスを乗り継いで金沢支部に集いました。日曜日の朝、バスはほとんどいつも満員で立っていることが多かったのですが、片手で小さい子供を抱き、もう一方の手で大きい子供の手を引いてとても大変だったと思います。本当に苦勞して教会に出席しました。

昭和45年5月ごろ、神様の恵みにより、再び小松に支部が設立されました。集会もまったく普通の民家で行なわれましたが結構楽しかったです。それから市役所前の貸しビルへ移り、ここにいる間に北陸地方部が誕生しました。そしてついに今の敷地に移転して建物が建ち、昨年古い建物を改造してとてもすばらしい教会堂が誕生しました。新しい建物が完成するまでの間、多くの人たちとの出会いがありました。出席人数は、あまり多くはありませんが接触のあったのは本当に多くの良い人たちばかりでした。良い人たちばかりならなぜ、と疑問が残ると思いますが、そこがまた伝道のむずかしいところとも思われます。

栄枯盛衰は世の習わしとか、もし小松の地に大学のひとつでもあればいいとも思いました。「しおらしき名や小松吹く萩すすき。」芭蕉の北陸行脚の

時の句です。私は本当にこのしおらしい小松が好きです。そして支部の一人一人の教会員の強い信仰が誇りです。この献堂された神様からの最大のプレゼントを大切にし、さらに多くの人に

献堂式を終えて

北野真佐子

梅 雨明け宣言にはほど遠い7月8日は蒸し暑い日であった。しかし、小松支部の会員たちや宣教師にとっては、何にも換えがたい^{おごそ}敷^{けいけん}か^で敬虔な一日となった。

当日の午前中は、普段どおりの礼拝行事があり、その後、昼食をとり午後2時からスミス伝道部長の管理の許で献堂の儀式が聖なる祈りを通して執^とり行われた。ひき続いて、ゲストとして招かれたケント・デリカット兄弟の多くの経験から得た証は、集った200人以上の聴衆を釘付けにしてしまった。

献堂式を迎えるにあたり兄弟、姉妹、宣教師は一丸となって、建物の内外の清掃や飾りつけ、各組織の展示。そして月曜日から土曜日までのオープンハウス中のデモンストレーション、8日の昼食の準備など、それぞれの肉体は

主の福音を知らしめていきたいと思っています。心から神様に感謝申しあげます。(きたの・ともゆき 長老定員会会長)

綿のように疲れていたにもかかわらず、皆、喜々として主の^{ため}に働いた。

金沢から車で南へ約1時間のところに位置する小松支部は、小松市を中心に南は加賀市、北は手取川域より会員たちが集って来る。建物は決して大きくはないが、敷地はたつぷりとあるため、駐車場には全く困らない。

小松の地に伝道所が開設されたのは、昭和24年と聞いている。となると、小松支部の歴史は40年以上と言うことになり、日本伝道部の中でも古いのではないだろうか。

その頃^{ころ}バプテスマを受けた兄弟、姉妹の何人かは、現在も日本の内外で活躍している事を喜ばしく思っている。

古代、モーセがイスラエルの民をエジプトから導いたのも、又、ブリガム・ヤングやその他幾多の予言者が、信仰^{あつ}篤き開拓者と共に宮々とソルトレーク神殿を築き上げたのも、共に変わらぬ40年と言う永い年月であった。イエス・キリストが^{みたま}御霊によって荒野に導かれ、悪魔に試みられる為に断食されたのも40日40夜であった。

このような記念すべき年月や、苦節の年月と重ね併せて迎えることの出来ない、献堂に、人知では測り知ることの出来ない、神さまの特別な愛と御こころのあることを^し識り、感謝の気持ちで一杯である。

古代や、開拓時代の信仰の試練は熾^し烈なものであった。しかし、小松支部が現在ここに至るまでの^う紆余曲折^{よきよくせつ}は、閉鎖、再開と言う憂き目には出逢ったが、その他、特別な試練には、必ず、神さまは善き人々を常に備えて^{こた}応えて下さり、困難を乗り越えることが出来たのである。



北野ご夫妻

昭和24年頃と言えば戦後間もなくで物不足ではあったが、大人も子供も生きて行く事に真剣で、夢と希望に満ち溢れていた。

私は27年頃から教会に集い始めたが初期の34年の小松支部の様子は同級生の何人かが教会に集っていたので、間接的に、感動したことや楽しかったこと、外人さんから学ぶ英会話の雰囲気などよく聞かされた。

彼等は末日聖徒の宣教師であった。その一人はハワイ出身のアイザック長老であったのではないだろうか。彼はその後、東京で交通事故死し、英会話の同級生たちが嘆き悲しんでいたのを鮮明に覚えている。

集会場は、大和善隣館、消防署の二階、能島姉妹宅など、あちらこちらとよく移り変わり、その都度、宣教師の自転車に下駄ばきで相乗りしながら集っていた。モルモン経はグリーン色の分厚い小さなもので、字も細かくとても解りにくかった。

その集會に、アメリカ兵たちも時々女性を連れて見えていた。彼等の温かさ、そして、ユーモアのある話は楽しく面白かった。又、母国に対する忠誠心は強く、決して盲目的ではなかった。日本は丁度、民主主義、男女同権の風が吹き荒れる一歩手前だったので、そのことが特に、印象深く感じられた。

彼等の女性たちも、気持ちのやさしい人々で、自分の生活は決して正しいものではないことをよく知っていて、自分の力で生きて行く方法を求めている。私は、彼女達と親しくなればなるほど、偏見と差別とは、いかに無意味なものであるかを、福音と彼女達から知ったのである。

私は、家庭集會で「神の特質」「三身三体」「ジョセフ・スミスの見神」等のレッスンを何回も何回も受けた。暗記できる程に教わったお陰で、今でも脳裏にはっきりと残っているのである。教わる多くの事柄のすべてが新鮮で、正に感動であった。いまそれ等は、全て私の貴重な財産である。

宣教師について、真面目なお話を

……。時はあたかも、映画全盛時代で、各映画館から騒々しく流れてくる素敵な？曲は「お富さん」。彼等は伝道から帰ると、自転車を能島姉妹宅に横付けにするが早いか「シンダハズダヨ、オートミッサン」と大きな声で歌うので、近所の人たちも大爆笑だった。

昭和55年1月14日の夜のプラット長老の列車による事故死は、もっとも悲しい出来事として小松支部の忠実に刻み込まれる事になってしまった。

当時、北陸地方部長だった主人は、伝道部長の緊急電話で、私達は、花一輪持たず、主人の新しいゆかた一枚を持って、病院に駆つけて彼に対面した時には、誰が手向けて下さったのか清楚な菊の花が一輪添えてあった。彼は、眠っているように安らかで、そして美しく綺麗だった。

小松総合病院の医師や看護婦、小松駅の駅長さん、彼が綺麗なままの状態、家族の許に行けるようにと翌日の祭日を返上して、10時間近くをかけて、血液を薬液と交換して下さった金沢大学の教授や助教授の方々。又、彼を本国まで送り届ける為、力を貸して下さった航空会社の方々。末日聖徒でない彼らは末日聖徒の基本聖句である「……互いに苦難を軽くするために喜んで助け合うこと、悲しむ者を思いやって共に悲しむこと、……」を、立派に実践して下さった。

自分の息子だったら、自分がこの子の親だったらと思うと、いても立っても居られず、そうせざるを得なかったと彼等は言った。

プラット長老は、ゆかたを着て、そんな手厚い人情と真心と共に、死んでも生きてるように綺麗なまま、本国の家族と悲しみの再会をした。あと三カ月で彼等は確実に、生きて抱き合う事が出来る苦であった。

彼は死んで、より以上に見事な伝道を果たした。神様は、彼にご褒美として多くの人々の無私の愛を贈られたのである。

そのプラット家族を本国で助け励ましたのは、小松支部出身の姉妹であっ

た。気がかりだったプラット家族について、私達は彼女の連絡でどれだけ安心したことか、彼女は私の唯一人の教会に残った同級生であり、何かにつけて私達を、励まし導いてくれた尊い友でもある。

当時、私が教会へ集いながら感銘を受けたのは、能島幸子姉妹母子であった。彼女は自宅の大半を宣教師と集会場に提供し、母子は一部屋にひっそりと暮らしながら、病弱な身体であっても献身的に宣教師を助け、愛し、尽くす姿は美しく、私はイエス・キリストと切っても切れない奉仕を知識のみではなく視覚と身体で知らず知らず学び得た。それが、現在の私のささやかな奉仕の原点となっているのである。

献堂式を迎えるにあたり、私の頭の中も、こころの中も熱く、現在と過去とが絡み合って、幾度、懐かしさと感激で涙したかわからない。

後ろを振り返る余裕すらなく、唯ひたすらに、生ける神を信じて歩んできた未熟な私たち家族も、やがて信仰生活40年を迎えようとしている。

これから先にどんな試練があるのか、皆目わからないが、今までに得た経験と証を基盤にして、「まず第一に神を愛し、自分を愛するように、隣人を愛し仕える人に……」を献身で示して下さった、故能島姉妹の模範を大切に、急変する社会情勢の中にあっても、指導者に従い、家族が、隣人が謙虚に互いに助け合って、生きて行かなければならないと思う。

つつがなく献堂式を、迎え終えることが出来て、支部長會やその他神権者の御苦労は大変だったと思う半面気が抜けたような感じでもある。

最後に、教会幹部や建築に昼夜携わって下さった人たちをはじめ、これまで小松支部を支え、その歴史をになつてこられた沢山の兄弟姉妹に深く深く感謝の意を表したい。(きたの・まさこ 地方部扶助協會会長。1990、7、20記)

楽しかった「建てよう会」

西出ヤス



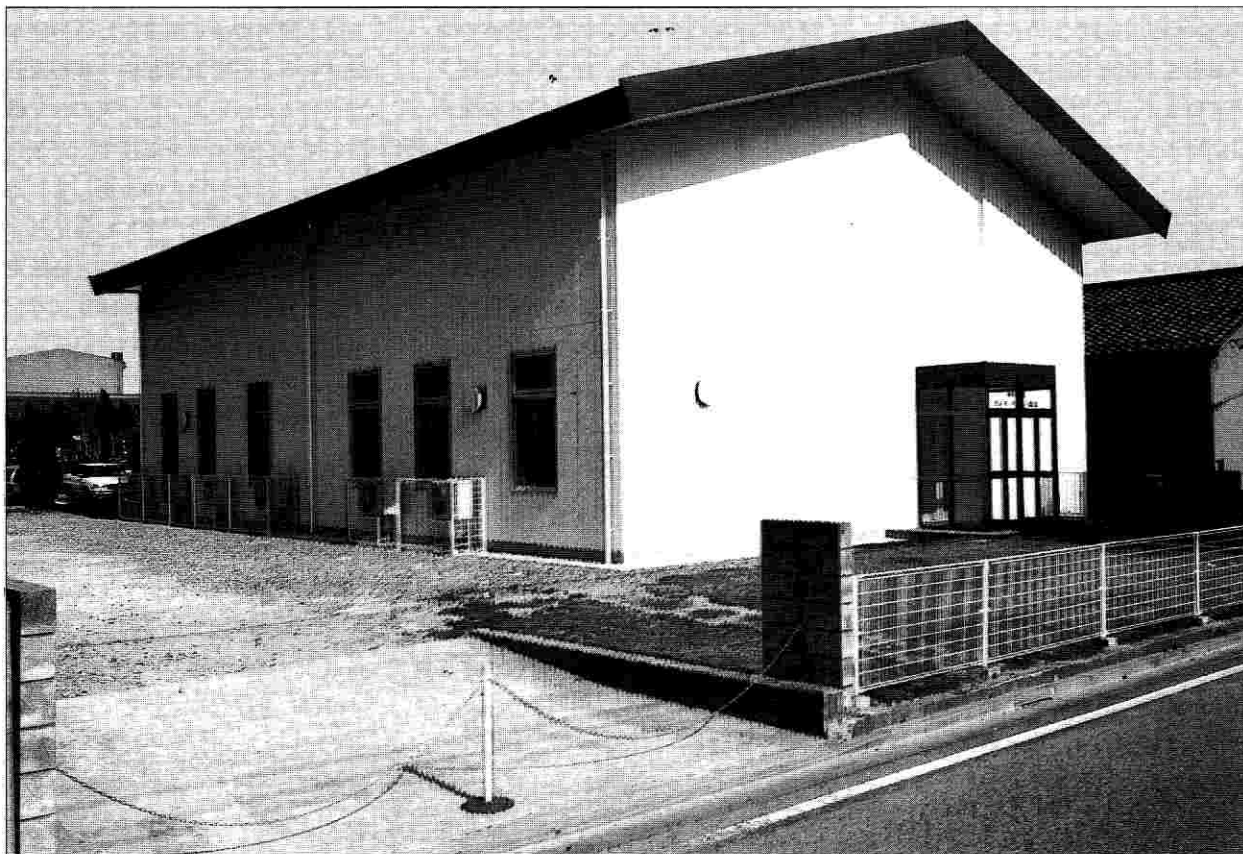
1949年に私がバプテスマを受けてから支部が一時閉鎖になるまでの約7年間、小松支部では月に1度「建てよう会」をしていました。別名「食べよう会」ともいい、宣教師、会員、求道者が集まって和気あいあいと食事をするのです。参加者はだいたい14人から20人でひとり100円ずつ払い、建築資金をためるのが目的でした。カレーライスが1皿100円の時代でした。集会所や会員宅、求道者宅など、場所も様々でした。この会を通して求道者は増え、改宗者もたくさんあり、多くの人たちとの出会いがあったことも、

今では懐かしい思い出となっています。

小松支部が閉鎖になり、人数も減った時はとてもショックでした。このほかにも今までの信仰生活の中で様々な試練に遭いましたが、そのような時にはいつも心の中でキリストに対して全幅の信頼をおいて嘆願し、助けていただきました。またモルモン経に書かれた神の真実のみ言葉から助けを受け、キリストが約束してくださった特別な平安と慰めをいただけてきました。福音を知っていることで生活に充実感があることを、感謝しています。(にしで・やす 扶助協会教師)

北陸地方部小松支部の教会堂紹介

(1990年6月28日完成)



鉄骨造2階建
敷地面積：911.02m²

建築面積：263.73m²
延床面積：390.84m²

所在地：小松市丸の内町竹島2-2 ☎0761-21-3272

家族の改宗

山野洋子



私 たち家族が初めて宣教師に会い、人生を180度転換することになったのは、1975年7月18日だったと思います。それまでは小松市民として平凡に生活している一家族に過ぎませんでした。世の中の多くの人と同じように、お金さえあればこの世のすべての幸せを買うことができると思い、毎日毎日幼いふたりの子供を連れて夫婦共稼ぎの日々を送っていました。けれどもその忙しい毎日の中で、いつも心の中に不安がありました。それは私たちの生き方はこれでいいのか、子供の育て方はこれでいいのか、子供たちが成人したとき後悔するようなことはないだろうかという不安でした。

また、そのころ近くにあるカトリック系の幼稚園に通っていたふたりの子供から毎日「お父さんとお母さんはどうして天のお父様にお祈りしないの」と食事のときごとに責められていたのです。そしていつもふたりの子供たちの祈りが終わるのを待って食事が始まりました。私たち夫婦は無神論者だったのですが、子供たちが「天のお父様に感謝します。きょうもおいしい食事がいただけることを感謝します」といってお祈りしているのを、そんなことをしなくてもいいのよと言うわけにもゆかず、だからといって祈る習慣のない私たちがお祈りすることもできず毎

日悩んでいたとき、ふたりの宣教師が玄関の戸を開けたのです。

私はそれまで外国人の方といえぱ子供たちが通っている幼稚園の神父以外は知りませんでしたので、てっきり幼稚園から来てくださった先生方だと思い込んでいました。ふたりの宣教師は私の顔を見て一番最初に「あなたは幸福になりたいと思いませんか」と言いました。私はもちろん不幸になりたいとは思いませんから、「できる限り幸福になりたいです」と言いました。すると宣教師の方は「私たちが幸福になる方法を知っていると云ったら教えてほしいですか」と言いました。それで私は大きくうなずいて「教えてください」と答えました。すると宣教師の方は「この方法は家族全員で聞かないと決して幸福になれないのでご家族で聞いてくださいますか」と言いました。私はどうしても幸福になる方法を聞きたいと思い、あまり乗り気でない主人を無理やり誘ってレッスンが始まったのです。

その晩から始まったレッスン風景は今から思うとこっけいなものでした。子供たちは一人一人宣教師のひざの上に座り、主人は365日飲んでいたお酒を飲みたばこを吸いながら始まったのです。レッスンが進むにつれて「お祈りしていただけますか」、「モルモン経を読んでいただけますか」とチャレンジを受けました。主人は33年間、私は28年間受けたこともないチャレンジです。5歳と6歳の子供たちだけが非常に喜んでいました。

私たちは幸福になるために努力しました。モルモン経も少しずつ読み、お祈りもぎこちないながらもできるようになりました。けれどもその次に主人の目の前が真っ暗になるような知恵の言葉、什分の一の戒めが待っていました。ギャンブルも禁じられていることでした。主人にとって毎日の晩酌

が最も楽しみでしたし、たばこも1日40本ぐらいは吸っていました。パチンコが大好きでマージャンもとても強い人でした。それに私たち夫婦が共稼ぎをしていても生活は決して楽な方ではないのに、什分の一を納めるなどとは考えられないことでした。

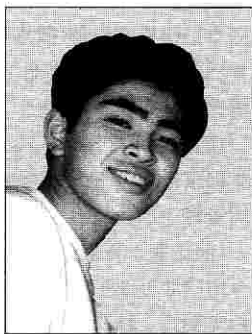
あまりに多くの試練にどうしてもバプテスマを受ける決心がつかないでいた私たちの前に、ある兄弟が現われました。この兄弟は遠く名古屋よりインスティテュートのクラスを教えに来てくださっていたのです。彼の最初の印象は温かくてやさしそうで穏やかで、私たちが今まで会った人々とまったく違うタイプの方でした。彼はこの教会が真実なこと、またその教えは真理であるということ、戒めはそれを守る人を最も成長させるすばらしい神様からのプレゼントであるという証を力強く宣べてくださいました。天のお父様を信じてバプテスマを受けてくださいと言われ、私たちは大決心をしました。

1975年8月3日、主人と共にバプテスマを受けました。子供たちは歓声を上げて喜び、支部の兄弟姉妹からは握手攻めに会いました。顔は涙でグシャグシャでした。

あの日から約16年になろうとしています。息子は今福岡伝道部で宣教師としての召しを果たしています。娘は伝道に出る準備をしています。主人は4年間小松支部の支部長としての召しを果たし、一昨年7月に解任されました。私は今、支部のセミナーの教師としての召しを果たしています。私たちが求めていた本当に幸福になれる道を家族で歩んでいます。この教会が真実の教会であることを証いたします。(やまの・ひろこ 支部セミナー教師)

話しかける勇氣

西尾英樹



去 年の春、小松支部で伝道していた宣教師からフェローシップについて説明がありました。この時までぼくはフェローシップについてあまり考えたことがありませんでした。

求道者や新会員は、だれも知らない中に来るわけですから不安だし、たとえば宣教師が一生懸命に仲良くしても転

任してしまうとまたひとりぼっちという気がして不安になります。こんな時に会員が仲良くしてあげると心強いものです。教会員の両親のもとで育ったぼくは、ひとりぼっちであることの不安やさみしさを味わったことがないだけに、宣教師からフェローシップの大切さを聞いてとても鮮烈な印象を受け、自分もしないといけないという気になりました。

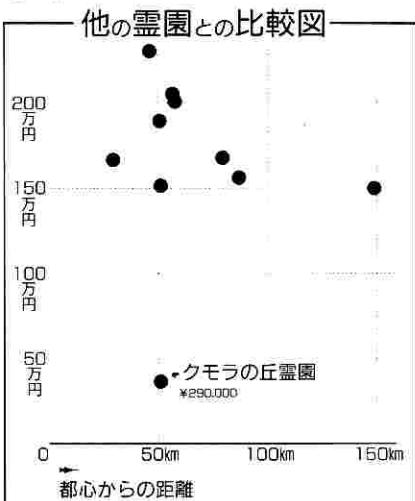
そんなある日曜日、宣教師はぼくと同じ高校2年生の男の子を連れて来ました。宣教師は、しきりに彼に話しかけるように合図します。けれどもそれまでぼくはあまり自分から人に話しかけたことがなかったので、いざ知らない人に話すには勇氣が要りました。何しろフェローシップをするのは初めてですから、必死で笑顔をつくり、無理に明るい声で話しかけました。彼は驚

いたように、敬語で返事をしてきました。ぼくはもっと気楽に話そうとするのですが、ぼくも上がっていて、その時はもう大変でした。何部に入っているのかとか、どこの中学校に行っていたのかとか、やっとの思いで5分ぐらい話しました。でも2度目からは普通に話すことができました。彼はバプテスマを受けるまでの約1カ月、毎週日曜日に教会に来ました。当時毎週体育館を借りて行っていた支部のスポーツ活動にも顔を出しました。この間彼が少しでも居心地良く感じるようにという点だけに気を付けて話をしました。今、小松支部には同じ年の会員はほかにあまりなく、ぼくにとって彼はパートナーのような存在となっています。彼に会わせてくださった天父と宣教師に感謝しています。(にしお・ひでき)

1991年度 「クモラの丘霊園」分譲のお知らせ

所在地：埼玉県入間郡
毛呂山町長瀬1313

「クモラの丘霊園」分譲の今年度募集の締め切りは、1991年12月31日です。永代使用料は毎年値上がりいたします。分譲希望者は、早目にお申し込みください。



- | | |
|----------------------|---|
| 1. 墓地永代使用料
支払い方法 | 1 区画290,000円
一括または分割払い。分割払いの場合は、初回金6,800円、以降毎月4,800円59回払いの無利子分割払いとなります。 |
| 2. 墓地管理料 | 年間3,000円(初回金とともに1年分を前納し、以降毎年定められた期日までに支払うものとします) |
| 3. 申し込み方法 | 以下の書類をクモラの丘霊園事務局に提出してください。
(1)クモラの丘霊園使用申し込み書
(2)住民票
(3)クモラの丘霊園永代使用契約書 2通
(4)銀行自動振替手続き書類 |
| 4. 今年度申し込み期限 | 1991年12月31日まで |
| 5. 墓所の指定 | 申し込み書類受領確認の後、順番に行ないます。 |
| 6. 初回金および
管理料の振込先 | 三和銀行青山支店 普通預金口座219499
クモラの丘霊園 代表 岡本 亮 |
| 7. お問い合わせ先 | 〒106東京都港区南麻布5-10-30
末日聖徒イエス・キリスト教会内
クモラの丘霊園事務局 電話03(3440)2351(代) |

3月に召された専任宣教師

141期生 21人



後列左から1-7, 中列左から8-14, 前列左から15-21

<名前>	<出身地>	<伝道地>
1. 与那嶺一美	横浜S/横浜中央W	札幌伝道部
2. 久保圭子	大阪北S/茨木W	札幌伝道部
3. 恒住明美	山口D/下関B	東京南伝道部
4. 中澤勝道	東京西S/八王子第1W	名古屋伝道部
5. 小松雅彦	北陸D/金沢兼六園B	仙台伝道部
6. 藤原剛一	大阪堺S/堺W	東京南伝道部
7. 渡辺博正	東京東S/松戸W	岡山伝道部
8. 高松文子	盛岡D/盛岡B	大阪伝道部
9. 島袋真由美	沖縄那覇S/普天間W	仙台伝道部
10. 東川絹代	鹿児島D/鹿児島B	大阪伝道部
11. 中条淳	鹿児島D/都城B	名古屋伝道部
12. 遠藤順	横浜S/横浜第2W	札幌伝道部
13. 佐瀬正幸	町田S/町田第2W	神戸伝道部
14. 室武志	北陸D/福井第1B	岡山伝道部
15. 栗原由果	横浜S/上大岡W	名古屋伝道部
16. 古川淑子	Anterp Belgium D/Gent B	札幌伝道部
17. 沖恵美子	大阪北S/茨木W	東京南伝道部
18. 森山誠	熊本D/大分B	仙台伝道部
19. 本多浩志	東京北S/越谷W	仙台伝道部
20. 森修	大阪堺S/和歌山W	東京南伝道部
21. 喜舎場慎司	大阪北S/京都洛南B	東京南伝道部

S:ステーク部, D:地方部, W:ワード部, B:支部

新役員の任命

1991年1月9日から1991年3月10日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の異動(敬称略)

- 三重地方部伊勢支部
新支部長:佐々木耕一
(前任者:松田伸)
- 東京南ステーク部渋谷ワード部
新監督:本多隆治
(前任者:有泉芳彦)
- 山口地方部宇部支部
新支部長:藤崎和夫
(前任者:山野道生)
- 沖縄那覇ステーク部普天間ワード部
新監督:金城寛
(前任者:玉寄和弘)
- 福知山地方部洲本支部
新支部長:田中健児
(前任者:中沢悟)
- 東京東ステーク部北千住支部
新支部長:佐々木民雄
(前任者:伊藤宏)

編集室から

皆さんの原稿を募集しています

▶ローカルページでは皆さんの原稿を募集しています。改宗談や日々の生活で得た証(仕事にかかわる証など),本誌を読まれての感想文などをお送りください。

▶これまでローカルページでは証の著者の生年を記載しておりましたが,今後は記載しないことになりました。ただし編集作業の参考のため,投稿の際には従来どおり連絡先(電話番号),教会での責任(役職名)に併せ,生年を記入してお送りください。

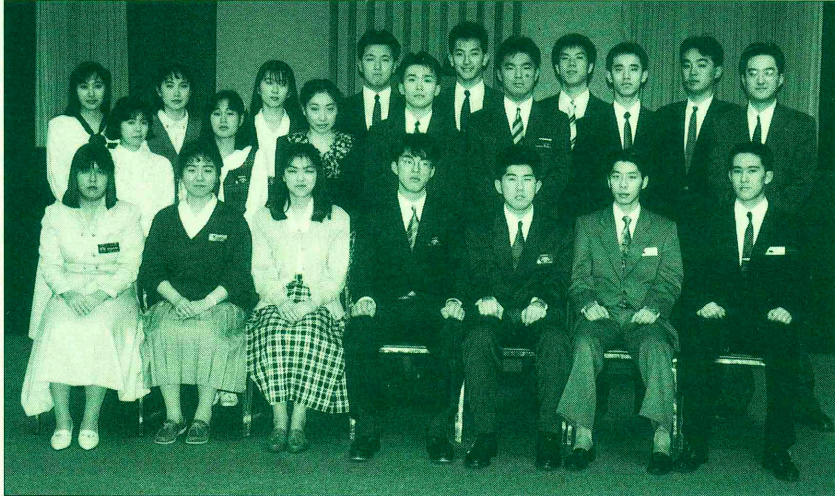
▶お送りいただいた原稿は一部手直しさせていただくことがあります。また,掲載されるまでには若干時間がかかる場合もありますのであらかじめご了承ください。

▶あて先:〒106 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室

☎03(3444)5264

3月に召された専任宣教師

141期生 21人



後列左から1-7, 中列左から8-14, 前列左から15-21

〈名前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1. 与那嶺一美 (よなねがみ いちみ)	横浜S/横浜中央W	札幌伝道部
2. 久保圭子 (くぼ けいこ)	大阪北S/茨木W	札幌伝道部
3. 恒住明美 (つねすま あけみ)	山口D/下関B	東京南伝道部
4. 中澤勝道 (なかざわ かつみち)	東京西S/八王子第1W	名古屋伝道部
5. 小松雅彦 (こまつ まさひこ)	北陸D/金沢兼六園B	仙台伝道部
6. 藤原剛一 (ふじはら 剛一)	大阪堺S/堺W	東京南伝道部
7. 渡辺博正 (わたなべ ひろまさ)	東京東S/松戸W	岡山伝道部
8. 高松文子 (たかまつ ぶんこ)	盛岡D/盛岡B	大阪伝道部
9. 島袋真由美 (しまぶくろ まゆみ)	沖縄那覇S/普天間W	仙台伝道部
10. 東川絹代 (あづまがわ きぬよ)	鹿児島D/鹿児島B	大阪伝道部
11. 中条淳 (なかじょう じゅん)	鹿児島D/都城B	名古屋伝道部
12. 遠藤順 (えんどう じゅん)	横浜S/横浜第2W	札幌伝道部
13. 佐瀬正幸 (させ まさゆき)	町田S/町田第2W	神戸伝道部
14. 室武志 (むろ たけし)	北陸D/福井第1B	岡山伝道部
15. 栗原由果 (くりはら ゆか)	横浜S/上大岡W	名古屋伝道部
16. 古川淑子 (ふるがわ しゅくこ)	Anterp Belgium D/Gent B	札幌伝道部
17. 沖恵美 (おき えみ)	大阪北S/茨木W	東京南伝道部
18. 森山誠 (もりやま まこと)	熊本D/大分B	仙台伝道部
19. 本多浩志 (ほんた ひろし)	東京北S/越谷W	仙台伝道部
20. 森修 (もり おさむ)	大阪堺S/和歌山W	東京南伝道部
21. 喜舎場慎司 (きしゃば じんじ)	大阪北S/京都洛南B	東京南伝道部

S:ステーク部, D:地方部, W:ワード部, B:支部

新役員の任命

1991年1月9日から1991年3月10日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の異動(敬称略)

- 三重地方部伊勢支部
新支部長:佐々木耕一
(前任者:松田伸)
- 東京南ステーク部渋谷ワード部
新監督:本多隆治
(前任者:有泉芳彦)
- 山口地方部宇部支部
新支部長:藤崎和夫
(前任者:山野道生)
- 沖縄那覇ステーク部普天間ワード部
新監督:金城寛
(前任者:玉寄和弘)
- 福知山地方部洲本支部
新支部長:田中健児
(前任者:中沢悟)
- 東京東ステーク部北千住支部
新支部長:佐々木民雄
(前任者:伊藤宏)

編集室から

皆さんの原稿を募集しています

▶ローカルページでは皆さんの原稿を募集しています。改宗談や日々の生活で得た証(仕事にかかわる証など),本誌を読まれての感想文などをお送りください。

▶これまでローカルページでは証の著者の生年を記載しておりましたが,今後は記載しないことになりました。ただし編集作業の参考のため,投稿の際には従来どおり連絡先(電話番号),教会での責任(役職名)に併せ,生年を記入してお送りください。

▶お送りいただいた原稿は一部手直しさせていただくことがあります。また,掲載されるまでには若干時間がかかる場合もありますのであらかじめご了承ください。

▶あて先:〒106 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室

☎03(3444)5264